

GA-Z77MX-D3H TH

ユーザーズマニュアル

改版 1101

12MJ-Z77MX3T-1101R

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address:

Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declare that the product

Product Type: Motherboard

Product Name: GA-Z77MX-D3H TH

conforms with the essential requirements of the following directives:

2004/108/EC EMC Directive:

Conduction & Radiated Emissions: EN55022:2006+A1:2007

Immunity: EN55024:1998+A1:2001+A2:2003

Power-line harmonics: EN61000-3-2:2006

Power-line flicker: EN61000-3-3:2008

2006/95/EC LVD Directive

Safety: EN60950-1:2006+A11:2009

2011/65/EU RoHS Directive

Restriction of use of certain substances in electronic equipment: This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.

CE marking



(EC conformity marking)

Signature: Timmy Huang

(Stamp)

Date: Jul 26, 2012

Name:

Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/(626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-Z77MX-D3H TH

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109
(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Jul 26, 2012

Name:

Timmy Huang

著作権

© 2012 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。

本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。

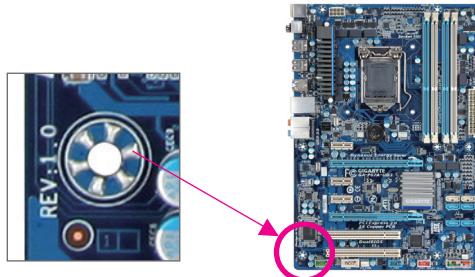
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報を探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

例：



目次

| | |
|--|----|
| ボックスの内容 | 6 |
| GA-Z77MX-D3H TH マザーボードのレイアウト | 7 |
| GA-Z77MX-D3H TH マザーボードブロック図 | 8 |
| | |
| 第 1 章 ハードウェアの取り付け | 9 |
| 1-1 取り付け手順 | 9 |
| 1-2 製品の仕様 | 10 |
| 1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け | 13 |
| 1-3-1 CPU を取り付ける | 13 |
| 1-3-2 CPU クーラーを取り付ける | 15 |
| 1-4 メモリの取り付け | 16 |
| 1-4-1 デュアルチャネルのメモリ設定 | 16 |
| 1-4-2 メモリの取り付け | 17 |
| 1-5 拡張カードを取り付ける | 18 |
| 1-6 AMD CrossFire™ /NVIDIA SLI 構成のセットアップ | 19 |
| 1-7 背面パネルのコネクター | 20 |
| 1-8 内部コネクター | 22 |
| | |
| 第 2 章 BIOS セットアップ | 31 |
| 2-1 起動画面 | 32 |
| 2-2 メインメニュー | 33 |
| 2-3 M.I.T. | 35 |
| 2-4 System (システム) | 46 |
| 2-5 BIOS Features (BIOS の機能) | 47 |
| 2-6 Peripherals (周辺機器) | 49 |
| 2-7 Power Management (電力管理) | 53 |
| 2-8 Save & Exit (保存して終了) | 55 |

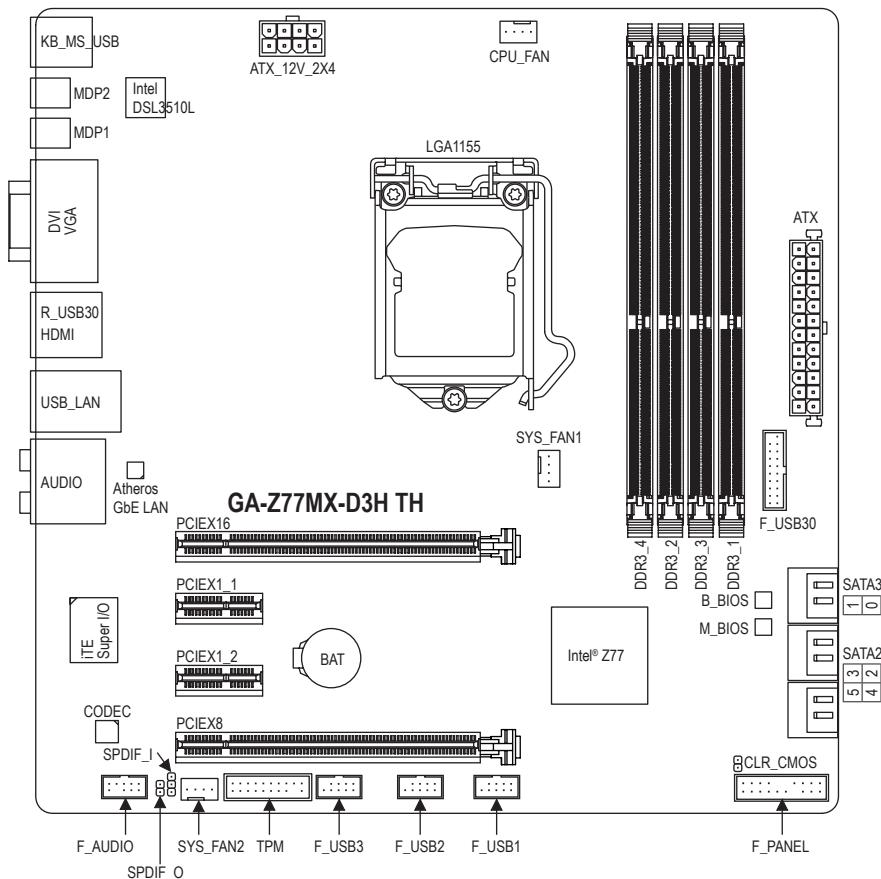
| | | |
|-------|--|----|
| 第3章 | ドライバのインストール | 57 |
| 3-1 | Installing Chipset Drivers (チップセットドライバのインストール) | 57 |
| 3-2 | Application Software (アプリケーションソフトウェア) | 58 |
| 3-3 | Technical Manuals (技術マニュアル) | 58 |
| 3-4 | Contact (連絡先) | 59 |
| 3-5 | System (システム) | 59 |
| 3-6 | Download Center (ダウンロードセンター) | 60 |
| 3-7 | New Program (新プログラム) | 60 |
| 第4章 | 固有の機能 | 61 |
| 4-1 | BIOS 更新ユーティリティ | 61 |
| 4-1-1 | Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する | 61 |
| 4-1-2 | @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する | 64 |
| 4-2 | EasyTune 6 | 65 |
| 4-3 | Q-Share | 66 |
| 4-4 | Smart Recovery 2 | 67 |
| 4-5 | eXtreme Hard Drive (X.H.D.) | 69 |
| 4-6 | Auto Green | 70 |
| 4-7 | EZ SETUP | 71 |
| 4-7-1 | EZ Smart Response のインストール | 72 |
| 4-7-2 | EZ Rapid Start のインストール | 73 |
| 4-7-3 | EZ Smart Connect のインストール | 74 |
| 第5章 | 付録 | 75 |
| 5-1 | SATA ハードドライブの設定 | 75 |
| 5-1-1 | SATA コントローラを構成する | 75 |
| 5-1-2 | SATA RAID/AHCI ライバとオペレーティングシステムのインストール | 83 |
| 5-2 | オーディオ入力および出力を設定 | 88 |
| 5-2-1 | 2/4/5.1/7.1 チャネルオーディオを設定する | 88 |
| 5-2-2 | S/PDIF イン / アウトを構成する | 90 |
| 5-2-3 | マイク録音を構成する | 92 |
| 5-2-4 | Sound Recorder を使用する | 94 |
| 5-3 | トラブルシューティング | 95 |
| 5-3-1 | 良くある質問 | 95 |
| 5-3-2 | トラブルシューティング手順 | 96 |
| 5-3-3 | 規制声明 | 98 |

ボックスの内容

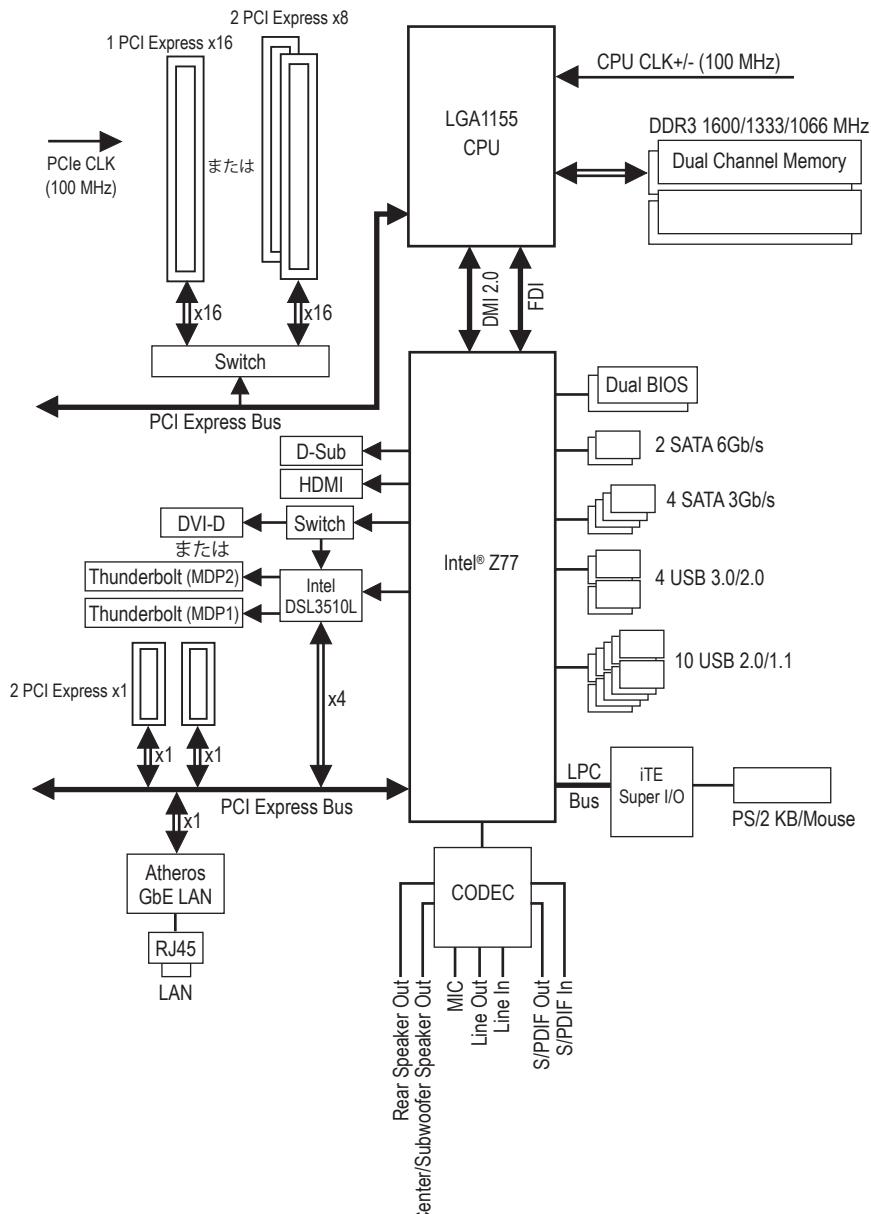
- GA-Z77MX-D3H TH マザーボード
- マザーボードドライバディスク
- ユーザーズマニュアル
- クイックインストールガイド
- SATA 6Gb/s ケーブル (x4)
- I/O シールド
- 2 方向 SLI ブリッジコネクター

上記、ボックスの内容は参考用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容は、事前の通知なしに変更することがあります。

GA-Z77MX-D3H TH マザーボードのレイアウト



GA-Z77MX-D3H TH マザーボードブロック図



製品の情報 / 制限の詳細は、"1-2 製品の仕様" を参照してください。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電気放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、PCケース（筐体・シャーシ）がマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードのS/N(シリアル番号)ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いてAC電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクターに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクターには触れないでください。
- マザーボード、CPUまたはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電気放電(ESD)リストラップを着用することをお勧めします。ESDリストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まずドライバーやペンチなどの金属部分に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクターが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはPCケース内部に、ネジやドライバーやペンチなどの金属製品が残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境に設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

| | |
|--|---|
|  CPU | <ul style="list-style-type: none">◆ LGA1155 Intel® Core™ i7プロセッサ/Intel® Core™ i5プロセッサ/ Intel® Core™ i3プロセッサ/Intel® Pentium® プロセッサ/Intel® Celeron® プロセッサのサポート (最新のCPUサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)◆ L3キャッシュはCPUで異なります |
|  チップセット | <ul style="list-style-type: none">◆ Intel® Z77 Expressチップセット |
|  メモリ | <ul style="list-style-type: none">◆ 最大32GBのシステムメモリをサポートする1.5VDDR3DIMMソケット(x4)<ul style="list-style-type: none">* Windows32ビットオペレーティングシステムの制限のため、4GB以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けた物理メモリのサイズより小さくなります。◆ DDR3 1600/1333/1066MHzメモリモジュールのサポート◆ 非ECCメモリモジュールのサポート◆ XMP(エクストリームメモリプロファイル)メモリモジュールのサポート(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。) |
|  オンボードグラフィックス | <ul style="list-style-type: none">◆ 統合グラフィックスプロセッサ:<ul style="list-style-type: none">- D-Subポート(x1)- DVI-Dポート(x1)、1920x1200の最大解像度をサポートします。<ul style="list-style-type: none">* DVI-Dポートは、変換アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。* DVI-DとMDP2 Thunderboltポートの同時出力はサポートしていません。- HDMIポート(x1)、1920x1200の最大解像度をサポートします。◆ Intel DSL3510Lチップ:<ul style="list-style-type: none">- 2つのThunderboltポート(MDP1/MDP2)はミニ・ディスプレイ・ポート(MDP)とThunderboltモニターをサポートするとともに、2560x1600の最大解像度をサポートしています。<ul style="list-style-type: none">* モニターをDVI-Dポートに接続した場合、MDP2 ThunderboltポートはThunderboltストレージデバイスのみをサポートできます。* PCアーキテクチャのI/Oリソース制限により、使用できるThunderboltデバイスの数量は、インストールされたPCI ExpressとPCIeデバイスの数量に依存します。(詳細については1-7章「背面パネルコネクター」および第2章「周辺機器(Intel(R) Thunderbolt)」を参照してください。) |
|  オーディオ | <ul style="list-style-type: none">◆ VIA VT2021コーデック◆ ハイディフィニションオーディオ◆ 2/4/5.1/7.1チャンネル◆ S/PDIFイン/アウトのサポート |
|  LAN | <ul style="list-style-type: none">◆ Atheros GbE LANチップ(x1)(10/100/1000Mbit) |
|  拡張スロットフェイス | <ul style="list-style-type: none">◆ PCI Express x16スロット(x1)、x16で動作(PCIEX16)<ul style="list-style-type: none">* 最適なパフォーマンスを出すために、PCI Expressグラフィックスカードを1つしか取り付けない場合、PCIEX16スロットに必ず取り付けてください。◆ PCI Express x16スロット(x1)、x8で動作(PCIEX8) (PCIEX16およびPCIEX8スロットはPCI Express3.0規格に準拠しています。)<ul style="list-style-type: none">* PCI Express 3.0をサポートするかどうかは、CPUとグラフィックスカードの互換性に依存します。* PCIEX8スロットは、PCIEX16スロットとバンド幅を共有します。PCIEX8スロットが装着されているとき、PCIEX16スロットは最大x8モードで作動します。◆ PCI Express x1スロット(x2) (すべてのPCI Express x1スロットはPCI Express 2.0規格に準拠しています。) |

| | | |
|---|----------------------|--|
|  | マルチグラフィック クステクノロジ | ◆ AMD CrossFire™ / NVIDIA SLI テクノロジーのサポート |
|  | ストレージイ ンターフェイス | ◆ チップセット: - 最大 2つのSATA 6Gb/s デバイスをサポートする 2 x SATA 6Gb/s コネクター (SATA3 0/1) - 最大 4つのSATA 3Gb/s デバイスをサポートする 4 x SATA 3Gb/s コネクター (SATA2 2~5) - SATA RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 のサポート * SATA 6Gb/sとSATA 3Gb/sのチャンネルを同時に使いRAIDが構築されている場合、RAID構成のパフォーマンスは接続されているデバイスによって異なります。 |
|  | USB | ◆ チップセット: - 最大4のUSB 3.0/2.0ポート (背面パネルに2つのポート、内部USBヘッダーを通して2ポートが使用可能) * Windows XPでは、Intel USB 3.0ポートはUSB 2.0の転送速度までサポートしています。 - 最大10のUSB 2.0/1.1ポート (背面パネルに4つのポート、内部USBヘッダーを通して6ポートが使用可能) |
|  | Thunderbolt | ◆ Intel DSL3510Lチップ: - 背面パネルに2つのThunderboltポート |
|  | 内部 コネクター | ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクター (x1) ◆ 8 ピン ATX 12V 電源コネクター (x2) ◆ SATA 6Gb/s コネクター (x2) ◆ SATA 3Gb/s コネクター (x4) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x2) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ S/PDIF インヘッダ (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x3) ◆ CMOSクリアジャンパ (x1) ◆ トラステッドプラットフォームモジュール(TPM)ヘッダ (x1) |
|  | 背面パネルの コネクター | ◆ PS/2 キーボード/マウスピート (x1) ◆ Thunderboltポート (x2) ◆ D-Subポート (x1) ◆ DVI-Dポート (x1) ◆ HDMIポート (x1) ◆ USB 3.0/2.0ポート (x2) ◆ USB 2.0/1.1ポート (x4) ◆ RJ-45ポート (x1) ◆ 光学 S/PDIF アウトコネクター (x1) ◆ オーディオジャック (x5)(センター/サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、ラインイン、ラインアウト、マイクイン) |

| | | |
|---|---------------|--|
|  | I/O コントローラ | ◆ iTE I/O コントローラチップ |
|  | ハードウェア | ◆ システム電圧の検出 モニタ ◆ CPU/システム温度検出 ◆ CPU/システムファン速度検出 ◆ CPU 過熱警告 ◆ CPU/システムファンの異常警告 ◆ CPU/システムファン速度制御 * CPU/システムファン速度コントロール機能がサポートについては、取り付けたCPU/システムクーラーによって異なります。 |
|  | BIOS | ◆ 64 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI EFI BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.6, ACPI 2.0a |
|  | 固有の機能 | ◆ @BIOS のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ EasyTune のサポート * EasyTuneで利用可能な機能は、削除モデルによって異なります。 ◆ Smart Recovery 2 のサポート ◆ Auto Green のサポート ◆ ON/OFF Charge のサポート ◆ Q-Sshare のサポート ◆ 3D Power のサポート ◆ EZ Setup のサポート |
|  | バンドルされたソフトウェア | ◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Rapid Start Technology ◆ Intel® Smart Connect Technology ◆ Intel® Smart Response Technology ◆ LucidLogix Virtu MVP * モニターケーブルが背面パネルにある統合グラフィックポートに接続されていることを確認して下さい。 |
|  | オペレーティングシステム | ◆ Microsoft® Windows 8/7/XP のサポート |
|  | フォームファクタ | ◆ マクロ ATX フォームファクタ、24.4cm x 24.4cm |

* GIGABYTEは、事前の予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。

* GIGABYTEのWebサイトにある[Support & Downloads Utility](#)ページにアクセスし、「独自機能」と「バンドルされたソフトウェア」の欄にリストされたソフトウェアがサポートするオペレーティングシステムをご確認ください。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

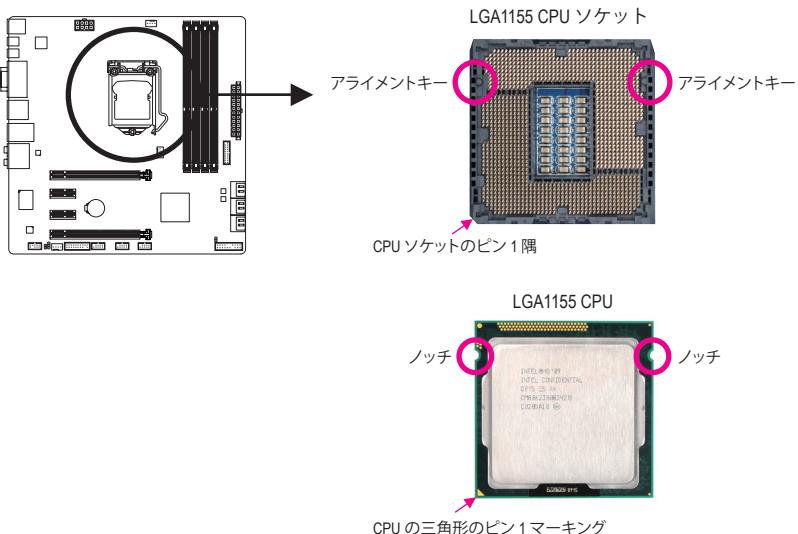


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。
(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します。)
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータのパワーをオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1 CPU を取り付ける

A. マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



B. 以下のステップに従って、CPUをマザーボードのCPUソケットに正しく取り付けてください。

⚠️ CPUを取り付ける前に、CPUの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



ステップ1:
CPUソケットレバーハンドルをそっと押しながら、指でソケットから外します。CPUソケットレバーを完全に持ち上げると、金属製ロードプレートも持ち上がります。



ステップ2:
図のように、CPUソケットカバーを取り外します。ソケットカバー背面を人差し指で押し下げ、親指でソケットカバーの先端（「REMOVE」マークの隣り）を持ち上げて取り外します。（ソケットの接点に触れないでください。CPUソケットを保護するため、CPUを搭載していないときは常に保護ソケットカバーを着けてください。）



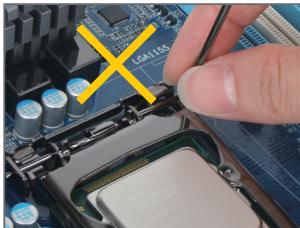
ステップ3:
CPUを親指と人差し指で抑えます。CPUピン1のマーキング(三角形)をCPUソケットのピン1隅に合わせ(または、CPUノッチをソケットアライメントキーに合わせ)、CPUを所定の位置にそっと差し込みます。



ステップ4:
CPUが適切に挿入されたら、一方の手を使ってソケットレバーを押さえもう一方の手でロードプレートを交換します。ロードプレートを交換しているとき、ロードプレートのフロントエンドが肩付きねじの下にあることを確認します。



ステップ5:
CPUソケットレバーを押してロックされた位置に戻します。



注:
レバーの根元部分ではなく、ハンドルでCPUソケットレバーを支えます。

1-3-2 CPU クーラーを取り付ける

以下のステップに従って、CPU クーラーをマザーボードに正しく取り付けてください。(以下の手順は、サンプルのクーラーとして Intel® ポックスクーラーを使用しています。)



ステップ 1:
取り付けた CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。



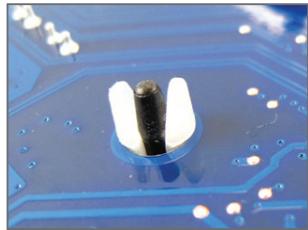
ステップ 2:
クーラーを取り付ける前に、オスブッシュピンの矢印記号 の方向に注意してください。(矢印の方向に沿ってブッシュピンを回すとクーラーが取り外され、逆の方向に回すと取り付けられます。)



ステップ 3:
クーラーを CPU の上に配置し、マザーボードのピン穴を通して 4 つのブッシュピンを揃えます。ブッシュピンを、対角方向に押し下げてください。



ステップ 4:
それぞれのブッシュピンを押し下げるごとに、「クリック音」が聞こえます。オスとメスのブッシュピンがしっかりと結合していることを確認してください。(クーラーを取り付ける方法については、CPU クーラーの取り付けマニュアルを参照してください。)



ステップ 5:
取り付け後、マザーボードの背面をチェックします。ブッシュピンを上の図のように差し込むと、取り付けは完了です。



ステップ 6:
最後に、CPU クーラーの電源コネクターをマザーボードの CPU ファンヘッダ (CPU_FAN) に取り付けてください。



CPU クーラーと CPU の間の熱伝導グリス/テープは CPU にしっかりと接着されているため、CPU クーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPU クーラーを不適切に取り外すと、CPU が損傷する恐れがあります。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

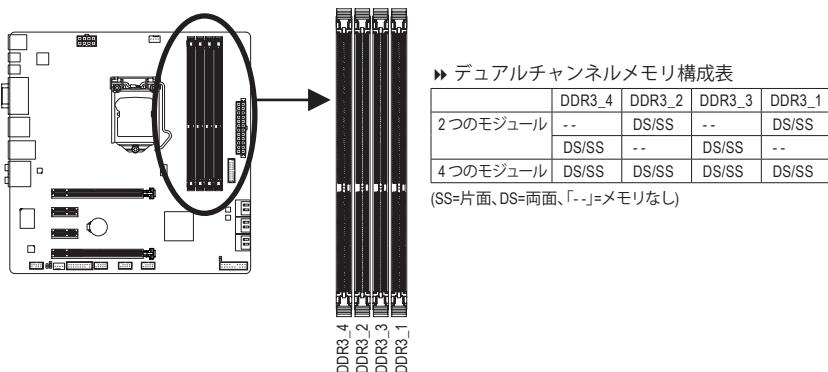
- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには4つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルモードでは、元のメモリバンド幅を2倍に拡げます。

4つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように2つのメモリソケットがあります：

- チャンネル A: DDR3_2, DDR3_4
- チャンネル B: DDR3_1, DDR3_3



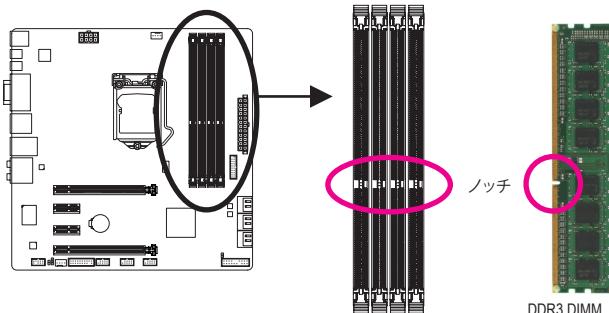
CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- DDR3メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つまたは4つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にした場合、最適なパフォーマンスを発揮するためには同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用し、同じ色のDDR3ソケットに取り付けるようお勧めします。最適なパフォーマンスを発揮するために、2つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているときは、DDR3_1とDDR3_2ソケットにそれらのモジュールを取り付けることをお勧めします。

1-4-2 メモリの取り付け

! メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

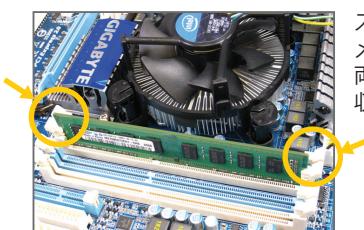
DDR3 と DDR2 DIMM は、互換性がありませんこのマザーボードにDDR3 DIMM を取り付けていることを確認してください。



DDR3 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリソケットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



ステップ1:
メモリモジュールの方向に注意します。メモリソケットの両端の保持クリップを広げ、ソケットにメモリモジュールを取り付けます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリソケットに垂直に差し込みます。

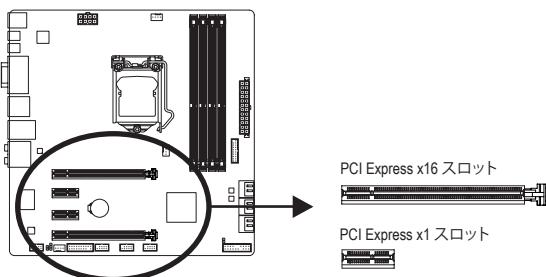


ステップ2:
メモリモジュールがしっかりと差し込まれると、ソケットの両端の保持クリップはカチッと音を立てて所定の位置に收まります。

1-5 拡張カードを取り付ける

拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



以下のステップに従って、拡張カードを拡張スロットに正しく取り付けてください。

1. カードをサポートする拡張スロットを探します。シャーシ背面パネルから、金属製スロットカバーを取り外します。
2. カードをスロットに合わせ、スロットに完全にはまりこむまでカードを押し下げます。
3. カードの金属接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
4. カードの金属ラケットをねじでシャーシ背面パネルに固定します。
5. 拡張カードをすべて取り付けたら、シャーシカバーを元に戻します。
6. コンピュータの電源をオンにします。必要に応じて、BIOSセットアップに移動し拡張カードに必要なBIOS変更を行います。
7. 拡張カードに付属するドライバをオペレーティングシステムにインストールします。

例えば:PCI Expressグラフィックスカードの取り付けと取り外し:



- グラフィックスカードを取り付ける:
カードの上端がPCI Expressスロットに完全に挿入されるまで、そっと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着され、ロックされていないことを確認します。



- カードを取り外す:
スロットのレバーをそっと押し返し、カードをスロットからまっすぐ上に持ち上げます。

1-6 AMD CrossFire™/NVIDIA SLI構成のセットアップ

A. システム要件

- Windows 7、Windows XP オペレーティングシステム
- CrossFire/SLI対応のマザーボード (PCI Express x16スロットを2つ、VGA用ドライバが必要)
- 同じブランドの2つのCrossFire/SLI対応グラフィックスカードおよびチップと正しいドライバ
- CrossFire^(注)/SLI ブリッジコネクター
- 十分な電力のある電源装置を推奨します (電源要件については、グラフィックスカードのマニュアルを参照してください)

B. グラフィックスカードを接続する

ステップ1:

「1-5 拡張カードを取り付ける」のステップに従って、PCIEX16とPCIEX8スロットにCrossFire/SLI グラフィックスカードを取り付けます。

ステップ2:

カードの上部にあるCrossFire/SLI金縁コネクターにCrossFire^(注)/SLIブリッジコネクターを挿入します。

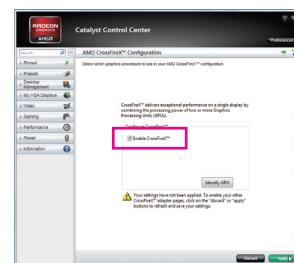
ステップ3:

ディスプレイカードを PCIEX16 スロットのグラフィックスカードに差し込みます。

C. グラフィックスカードドライバを構成する

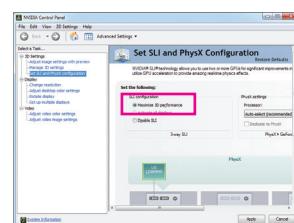
C-1.CrossFire機能を有効にする

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、Catalyst Control Centerに移動します。Performance\AMD CrossFire™ Configuration を閲覧し、Enable CrossFire[™] を有効にするチェックボックスが選択されていることを確認し、Applyをクリックします。



C-2.SLI機能を有効にする

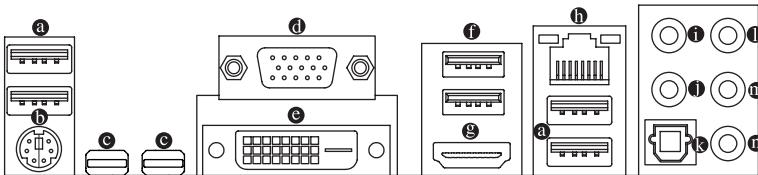
オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、NVIDIA Control Panelパネルに移動します。Set SLI and Physx Configurationの設定画面を閲覧し、Maximize 3D performanceが有効になっていることを確認してください。



(注) ブリッジコネクターはグラフィックスカードによって必要となる場合もあれば、必要な場合もあります。

 CrossFire/SLI技術を有効にするための手順とドライバ画面は、グラフィックスカードとドライババージョンによって異なることがあります。CrossFire/SLIを有効にする方法について、詳細はグラフィックスカードに付属のマニュアルを参照してください。

1-7 背面パネルのコネクター



a USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

b PS/2キーボード/マウスポート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードを接続します。

c Thunderboltポート (注1)

このポートは、Thunderboltデバイス用またはミニ・ディスプレイ・ポートのモニターに使用します。各 Thunderboltポートは3台前後のThunderboltデバイスをデイジーチェーン接続できます。さらにThunderbolt デバイスを接続する必要がある場合は、BIOSセットアップにある **Peripherals\Intel(R) Thunderbolt** の項目の中の **Reserved IO for Thunderbolt** を調整します。(詳細情報については、第2章「周辺機器\Intel(R) Thunderbolt」を参照してください。)

このマザーボードは2つのThunderboltポートを内蔵し、最大2台のディスプレイポートのモニターをサポートしています。同じポートにデイジーチェーン接続された2台のディスプレイポートのモニターは、1台の Thunderboltデバイス毎に分ける必要があります。サポートする最大解像度は2560x1600ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



DisplayPortデバイスをインストールした後、サウンド再生用のデフォルトデバイスがDisplayPortデバイスになっていることを確認してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。たとえば、Windows 7の場合、スタートコントロールパネルハードウェアとサウンド>サウンド>再生を順にポイントして、デフォルトの再生デバイスとしてDisplayPortデバイスを設定します。設定ダイアログボックスの前のページのHDMI設定情報を参照してください。)

d D-Sub ポート

D-Sub ポートは 15 ピン D-Sub コネクターをサポートします。D-Sub 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

e DVI-D ポート (注2)

DVI-DポートはDVI-D仕様に準拠しており、1920x1200の最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。)DVI-D接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

f USB 3.0/2.0 ポート

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

g HDMI ポート

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、非圧縮音声/動画信号の伝送が可能な全デジタルオーディオ/ビデオインターフェイスです。HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーレームHDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルLPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は 1920 x 1200ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。

(注1) DVI-DとMDP2 Thunderboltポートの同時出力はサポートしていません。モニターをDVI-Dポートに接続した場合、MDP2 ThunderboltポートはThunderboltストレージデバイスのみをサポートできます。

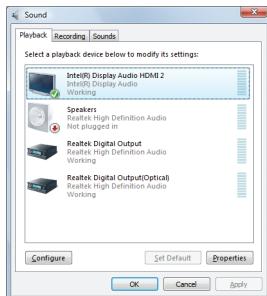
(注2) DVI-D ポートは、変換アダプタによる D-Sub 接続をサポートしていません。



- 背面パネルコネクターに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際には、コネクターから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクター内部でショートする原因となるので、横に振り動かさないでください。



HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。以下のスクリーンショットはWindows 7のものです。)



Windows 7で、スタート>コントロールパネル>ハードウェアおよびサウンド>サウンド>再生を選択し、Intel(R) Display Audioをデフォルト再生デバイスに設定します。

オンボードグラフィックスに対するマルチディスプレイ構成:

このマザーボードにはD-Sub、DVI-D、HDMI、Thunderbolt (MDP)の4つの映像出力端子があります。デュアルモニタ設定はオペレーティングシステム環境でのみサポートされ、BIOSセットアップまたはPOSTプロセスの間はサポートされません。

⑩ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のネットワーク接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を説明しています。

| 接続/速度 | アクティビティ | 接続速度 LED: | アクティビティ LED: |
|-------|-------------------|-----------|---------------|
| LED | LED | 状態 | 状態 |
| オレンジ | 接続 | オレンジ | 点滅 |
| 緑 | 1 Gbps のデータ転送速度 | 緑 | データの送受信中です |
| オフ | 100 Mbps のデータ転送速度 | オフ | オフ |
| | 10 Mbps のデータ転送速度 | | データを送受信していません |

⑪ センター/サラウンドスピーカーアウトジャック (オレンジ)

このオーディオジャックを使って、5.1/7.1チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

⑫ リアスピーカーアウトジャック (黒)

このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するためには使用することができます。

⑬ 光学 S/PDIF アウトコネクター

このコネクターにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクターが装備されていることを確認してください。

⑭ ラインインジャック (青)

デフォルトのラインアウトジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑮ ラインアウトジャック (緑)

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは4/5.1/7.1 チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

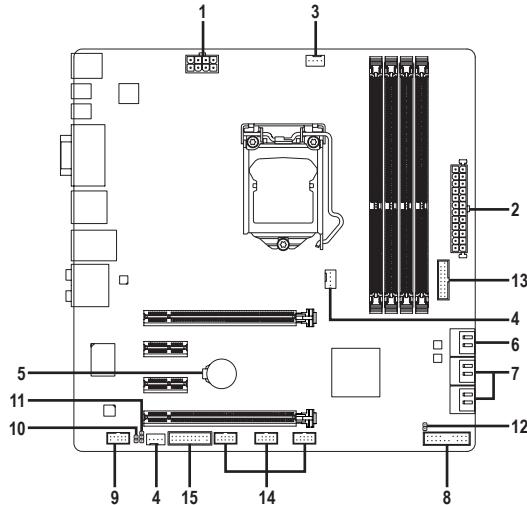
⑯ マイクインジャック (ピンク)

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

オーディオジャックをオーディオソフトウェアを介して異なる機能を実行するように再構成することができます。側面スピーカーを設置する場合、オーディオジャックから側面スピーカーに出力するよう設定しなおす必要があります。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります。第5章「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」の、2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の設定に関する指示を参照してください。



1-8 内部コネクター



| | | | |
|----|---------------|-----|----------------------|
| 1) | ATX_12V_2X4 | 9) | F_AUDIO |
| 2) | ATX | 10) | SPDIF_O |
| 3) | CPU_FAN | 11) | SPDIF_I |
| 4) | SYS_FAN1/2 | 12) | CLR_CMOS |
| 5) | BAT | 13) | F_USB30 |
| 6) | SATA3 0/1 | 14) | F_USB1/F_USB2/F_USB3 |
| 7) | SATA2 2/3/4/5 | 15) | TPM |
| 8) | F_PANEL | | |



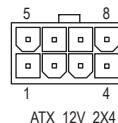
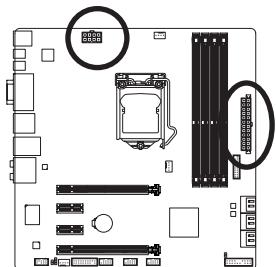
外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

- まず、デバイスが接続するコネクターに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクターにしっかりと接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V_2X4/ATX (2x4 12V 電源コネクターと 2x12 メイン電源コネクター)

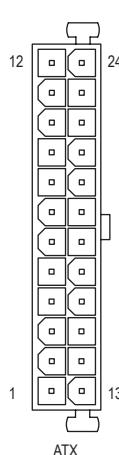
電源コネクターを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクターを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクターは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクターに接続します。12V 電源コネクターは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクターが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします（500W以上）。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V_2X4:

| ピン番号 | 定義 |
|------|-------------------|
| 1 | GND (2x4ピン12Vのみ) |
| 2 | GND (2x4ピン12Vのみ) |
| 3 | GND |
| 4 | GND |
| 5 | +12V (2x4ピン12Vのみ) |
| 6 | +12V (2x4ピン12Vのみ) |
| 7 | +12V |
| 8 | +12V |

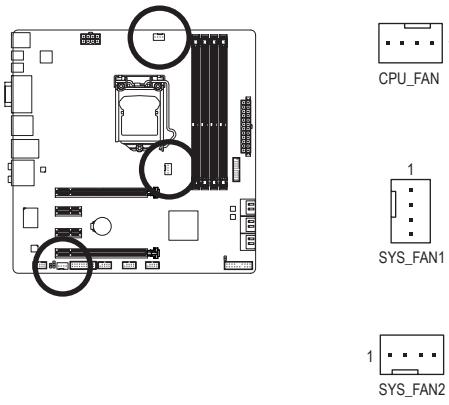


ATX:

| ピン番号 | 定義 | ピン番号 | 定義 |
|------|-----------------------|------|----------------------|
| 1 | 3.3V | 13 | 3.3V |
| 2 | 3.3V | 14 | -12V |
| 3 | GND | 15 | GND |
| 4 | +5V | 16 | PS_ON (ソフト オン/オフ) |
| 5 | GND | 17 | GND |
| 6 | +5V | 18 | GND |
| 7 | GND | 19 | GND |
| 8 | 電源良好 | 20 | -5V |
| 9 | 5VSB (スタンバイ +5V) | 21 | +5V |
| 10 | +12V | 22 | +5V |
| 11 | +12V (2x12 ピン ATX 専用) | 23 | +5V (2x12 ピン ATX 専用) |
| 12 | 3.3V (2x12 ピン ATX 専用) | 24 | GND (2x12 ピン ATX 専用) |

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN1/SYS_FAN2 (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクターウイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適な放熱を実現するために、シヤーシ内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN:

| ピン番号 | 定義 |
|------|-------------|
| 1 | GND |
| 2 | +12V / 速度制御 |
| 3 | 検知 |
| 4 | 速度制御 |

SYS_FAN1:

| ピン番号 | 定義 |
|------|-------------|
| 1 | GND |
| 2 | +12V / 速度制御 |
| 3 | 検知 |
| 4 | 確保 |

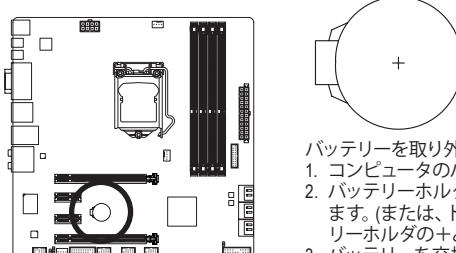
SYS_FAN2:

| ピン番号 | 定義 |
|------|------|
| 1 | GND |
| 2 | +12V |
| 3 | 検知 |
| 4 | 速度制御 |

- !**
- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。過熱はCPUが損傷したり、システムがハンギングアップする原因となります。
 - これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかつたり、失われる可能性があります。



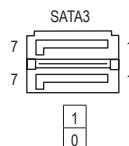
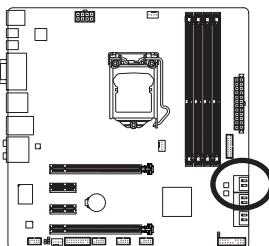
バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

1. コンピュータのパワーをオフにして、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1 分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。

- !**
- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
 - バッテリーを同等のバッテリと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、爆発する恐れがあります。
 - バッテリーを自分自身で交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からぬ場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
 - バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください(プラス側を上に向ける必要があります)。
 - 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

6) SATA3 0/1 (SATA 6Gb/sコネクター、Intel Z77 チップセット制御)

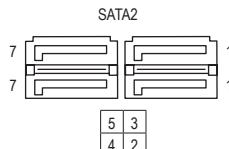
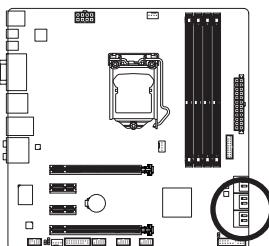
SATAコネクターはSATA 6Gb/sに準拠し、SATA 3Gb/sおよびSATA 1.5Gb/sとの互換性を有しています。それぞれの SATA コネクターは、単一の SATA デバイスをサポートします。SATA3 0/1 コネクターはRAID 0、および RAID 1をサポートします。RAID 5とRAID 10は、「SATA2 2/3/4/5」および mSATA コネクターの2つのコネクターに実装できます^(注)。RAIDアレイの構成の説明については、第5章「SATAハードドライブを構成する」を参照してください。



| ピン番号 | 定義 |
|------|-----|
| 1 | GND |
| 2 | TXP |
| 3 | TXN |
| 4 | GND |
| 5 | RXN |
| 6 | RXP |
| 7 | GND |

7) SATA2 2/3/4/5 (SATA 3Gb/sコネクター、Intel Z77チップセット制御)

SATA コネクターはSATA 3Gb/sに準拠し、SATA 1.5Gb/sとの互換性を有しています。それぞれの SATA コネクターは、単一の SATA デバイスをサポートします。Intel Z77チップセットでは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第5章「SATAハードドライブを構成する」を参照してください。



| ピン番号 | 定義 |
|------|-----|
| 1 | GND |
| 2 | TXP |
| 3 | TXN |
| 4 | GND |
| 5 | RXN |
| 6 | RXP |
| 7 | GND |

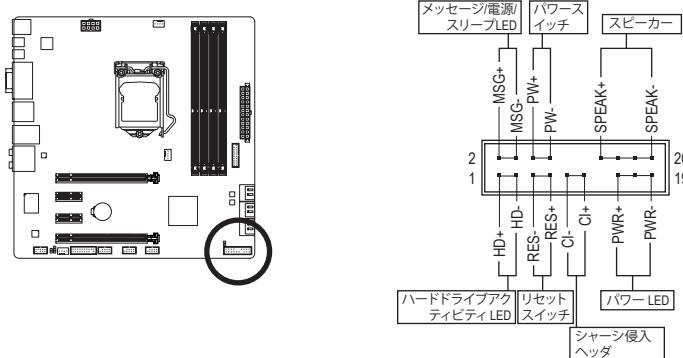


- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。
- RAID 5 設定は、少なくとも 3 台のハードドライブを必要とします。(ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります)。
- RAID 10構成には、ハードドライブが4台必要となります。

(注) SATA 6Gb/sとSATA 3Gb/sのチャンネルを同時に使いRAIDが構築されている場合、RAID構成のパフォーマンスは接続されているデバイスによって異なります。

8) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチを接続し、以下のピン割り当てに従ってシャーシのスイッチ、スピーカー、シャーシ侵入スイッチ/センサーおよびシステムステータスインジケータをこのヘッダに接続します。ケーブルを接続する前に、+と-のピンに注意してください。



- **MSG/PWR (メッセージ/電源/スリープLED、黄/紫):**

| システムステータス | LED |
|-----------|-----|
| S0 | オン |
| S3/S4/S5 | オフ |

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき(S5)、LEDはオフになります。

- **PW (パワースイッチ、赤):**

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます(詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理」を参照してください)。

- **SPEAK (スピーカー、オレンジ):**

シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が1度鳴ります。

- **HD (ハードドライブアクティビティ LED、青):**

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティLEDに接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LEDはオンになります。

- **RES (リセットスイッチ、緑):**

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

- **CI (シャーシ侵入ヘッダ、グレー):**

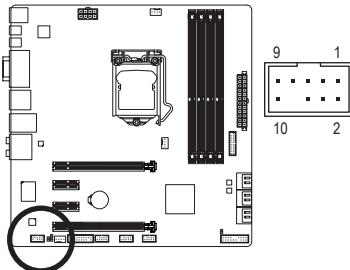
シャーシカバーが取り外されている場合、シャーシの検出可能なシャーシ侵入スイッチ/センサーに接続します。この機能は、シャーシ侵入スイッチ/センサーを搭載したシャーシを必要とします。



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源LED、ハードドライブアクティビティLED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

9) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intelハイデフィニションオーディオ(HD)とAC'97オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクターのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクターとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



HD前面パネルオーディオの場合 : AC'97 前面パネルオーディオの場合 :

| ピン番号 | 定義 |
|------|-----------|
| 1 | MIC2_L |
| 2 | GND |
| 3 | MIC2_R |
| 4 | -ACZ_DET |
| 5 | LINE2_R |
| 6 | GND |
| 7 | FAUDIO_JD |
| 8 | ピンなし |
| 9 | LINE2_L |
| 10 | GND |

| ピン番号 | 定義 |
|------|-----------|
| 1 | MIC |
| 2 | GND |
| 3 | MIC/パワー |
| 4 | NC |
| 5 | ラインアウト(右) |
| 6 | NC |
| 7 | NC |
| 8 | ピンなし |
| 9 | ラインアウト(左) |
| 10 | NC |

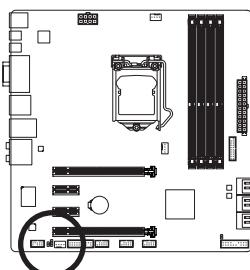


- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。シャーシに AC'97 前面パネルのオーディオモジュールが搭載されている場合、オーディオソフトウェアを介して AC'97 機能をアクティブにする方法については、第 5 章「2/4/5.1/7.1-チャンネルオーディオの設定」の使用説明を参照してください。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。背面パネルのオーディオ (HD 前面パネルオーディオモジュールを使用しているときにのみサポート) を消音にする場合、第 5 章の「2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオを設定する」を参照してください。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、單一プラグの代わりに各ワイヤのコネクターを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

10) SPDIF_O (S/PDIF アウトヘッダ)

このヘッダはデジタルS/PDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIFデジタルオーディオケーブル（拡張カードに付属）を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。

S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。

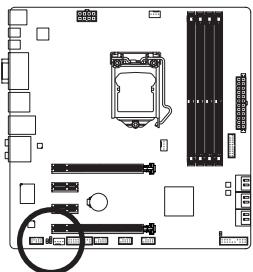


1
2

| ピン番号 | 定義 |
|------|--------|
| 1 | SPDIFO |
| 2 | GND |

11) SPDIF_I (S/PDIFインヘッダ)

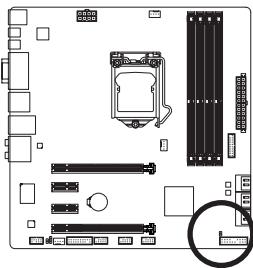
このヘッダはデジタルS/PDIFインに対応し、オプションのS/PDIFインケーブル経由でデジタルオーディオアウトをサポートします。オプションのS/PDIFインケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



| ピン番号 | 定義 |
|------|---------|
| 1 | 電源 |
| 2 | S/PDIFI |
| 3 | GND |

12) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパ)

このジャンパを使用して、CMOS値をクリアしたり（日付情報とBIOS設定）、CMOS値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を消去するには、ドライバーのような金属製物体を使用して2つのピンに数秒間触れます。



オープン : Normal

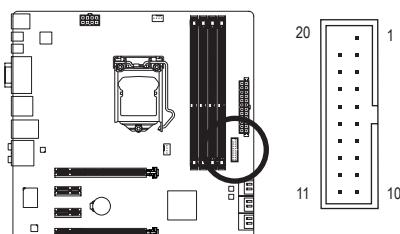
ショート : CMOS値の消去



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

13) F_USB30 (USB 3.0/2.0 ヘッダ)

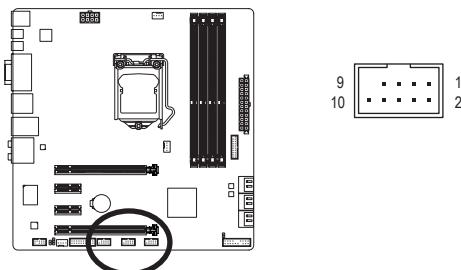
ヘッダはUSB 3.0/2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.0/2.0対応 2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



| ピン番号 | 定義 | ピン番号 | 定義 |
|------|--------|------|--------|
| 1 | VBUS | 11 | D2+ |
| 2 | SSRX1- | 12 | D2- |
| 3 | SSRX1+ | 13 | GND |
| 4 | GND | 14 | SSTX2+ |
| 5 | SSTX1- | 15 | SSTX2- |
| 6 | SSTX1+ | 16 | GND |
| 7 | GND | 17 | SSRX2+ |
| 8 | D1- | 18 | SSRX2- |
| 9 | D1+ | 19 | VBUS |
| 10 | NC | 20 | ピンなし |

14) F_USB1/F_USB2/F_USB3 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



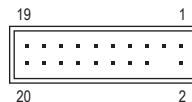
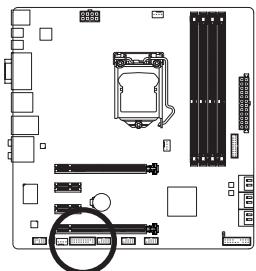
| ピン番号 | 定義 |
|------|---------|
| 1 | 電源 (5V) |
| 2 | 電源 (5V) |
| 3 | USB DX- |
| 4 | USB DY- |
| 5 | USB DX+ |
| 6 | USB DY+ |
| 7 | GND |
| 8 | GND |
| 9 | ピンなし |
| 10 | NC |



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

15) TPM (TPMモジュール用ヘッダ)

TPM (TPMモジュール) をこのヘッダに接続できます。



| ピン番号 | 定義 | ピン番号 | 定義 |
|------|--------|------|--------|
| 1 | LCLK | 11 | LAD0 |
| 2 | GND | 12 | GND |
| 3 | LFRAME | 13 | NC |
| 4 | ピンなし | 14 | ID |
| 5 | LRESET | 15 | SB3V |
| 6 | NC | 16 | SERIRQ |
| 7 | LAD3 | 17 | GND |
| 8 | LAD2 | 18 | NC |
| 9 | VCC3 | 19 | NC |
| 10 | LAD1 | 20 | SUSCLK |

第2章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行なうパワーオンセルフテスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアップ プログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアップ プログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flashにより、ユーザーはオペレーティングシステムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

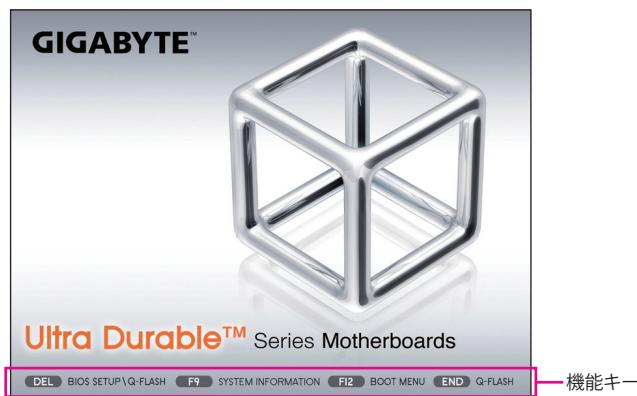
Q-Flash および @BIOS ユーティリティの使用に関する使用説明については、第 4 章、「BIOS 更新ユーティリティ」を参照してください。



- BIOS フラッシュは潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS をフラッシュしないことをお勧めします。BIOS のフラッシュは注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします(必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。



機能キー：

:BIOS SETUP\Q-FLASH

<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入り、BIOSセットアップでQ-Flashユーティリティにアクセスします。

<F9>:SYSTEM INFORMATION

<F9>キーを押すとシステム情報が表示されます。

<F12>:BOOT MENU

起動メニューにより、BIOSセットアップに入ることなく第1起動デバイスを設定できます。起動メニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を用いて第1起動デバイスを選択し、次に <Enter> キーを押して確定します。システムは、直ちにそのデバイスから起動します。

注：起動メニューの設定は1回のみ有効です。システム再起動後も、デバイスの起動順序はBIOSセットアップの設定がベースとなります。

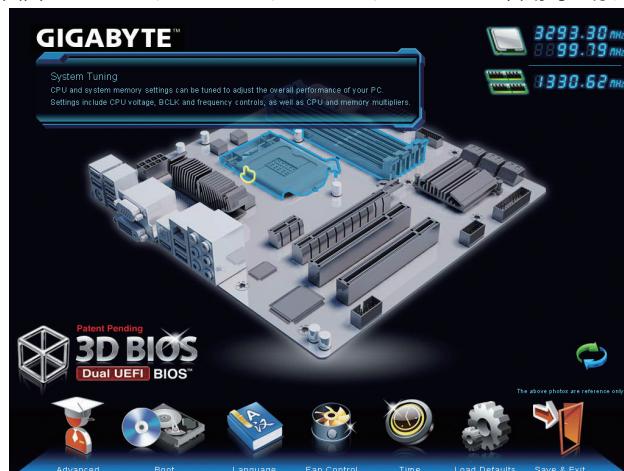
<END>:Q-FLASH

<END>キーを押すと、先にBIOSセットアップに入る必要なく直接Q-Flash Utilityにアクセスします。

2-2 メインメニュー

A. 3D BIOS 画面(既定値)

GIGABYTE 専用に設計された 3D BIOS 画面では、マウスを使用してマザーボードの画像を移動したり、高速設定のためクリックして各エリアの機能メニューに入ることができます。例えば、マウスの矢印を CPU とメモリ ソケット上を通過させ、**System Tuning** メニューに入って CPU またはメモリの周波数、メモリのタイミング、および電圧設定を構成するなどです。詳細な設定項目については、画面最下部の機能メニュー アイコンをクリックするかまたは <F1> を押して BIOS セットアッププログラムのメインメニューに切り替えます。(マウスが接続されていない場合、3D BIOS 画面は BIOS セットアッププログラムのメインメニューに自動的に切り替わります。)



B. BIOS セットアッププログラムのメインメニュー

BIOS セットアップ プログラムのメインメニューで、矢印キーを押して項目間を移動し、<Enter> を押して確定するかまたはサブメニューに入ります。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。

(参考画像は BIOS バージョン:F4c)



BIOS セットアッププログラムの機能キー

| | |
|-----------------|---|
| <←><→> | 選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。 |
| <↑><↓> | 選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。 |
| <Enter> | コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。 |
| <+>/<Page Up> | 数値を上昇させるかまたは変更を行います。 |
| <->/<Page Down> | 数値を下降させるかまたは変更を行います。 |
| <F1> | 3D BIOS 画面に切り替える |
| <F5> | 現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。 |
| <F7> | 現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。 |
| <F8> | Q-Flash Utility にアクセスします。 |
| <F9> | システム情報を表示します。 |
| <F10> | すべての変更を保存し、BIOS セットアップ プログラムを終了します。 |
| <F12> | 現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。 |
| <Esc> | メインメニュー: BIOS セットアップ プログラムを終了します。 サブメニュー: 現在のサブメニューを終了します。 |

BIOS セットアップメニュー

■ M.I.T.

このメニューを使用して、CPU、メモリなどのクロック、周波数、および電圧を設定します。またはシステムや CPU の温度、電圧、およびファンの速度をチェックします。

■ System (システム)

このメニューを使用して、BIOS が使用する既定の言語、システムの時間と日付を設定します。また、このメニューは SATA ポートに接続されたデバイスの情報も表示します。

■ BIOS Features (BIOS の機能)

このメニューを使用して、デバイスの起動順序、CPU で使用可能なアドバンスト機能、およびプライマリ ディスプレイ アダプタを設定します。

■ Peripherals (周辺機器)

このメニューを使用して、SATA、USB、オンボードオーディオ、オンボード LAN などの周辺機器をすべて設定します。

■ Power Management (電力管理)

このメニューを使用して、すべての省電力機能を設定します。

■ Save & Exit (保存して終了)

BIOS セットアップ プログラムで行われたすべての変更を CMOS に保存して BIOS セットアップを終了します。プロファイルに現在の BIOS 設定を保存したり、最適なパフォーマンスを実現するために最適化されたデフォルト値をロードすることができます。



- システムが安定しないときは、Load Optimized Defaults を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

2-3 M.I.T.



! システムがオーバークロック設定で安定して作動しているかどうかは、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違って設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOSを設定しますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS値を消去して既定値にリセットしてみてください。)



赤枠の表示内容については、BIOSバージョン、CPUベースクロック、CPU周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU温度、Vcore、およびメモリ電圧に関する情報を記載します。

▶ M.I.T.Current Status (M.I.T 現在のステータス)

このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が載っています。

▶ Advanced Frequency Settings (詳細な周波数設定)



☞ CPU/PCIe Base Clock

CPUベースクロックとPCIeバス周波数を0.01MHz刻みで手動で設定します。(既定値: Auto)
重要: CPU仕様に従ってCPU周波数を設定することを強くお勧めします。

☞ Processor Graphics Clock

オンボードグラフィックスクロックを設定できます。調整可能な範囲は400MHz~3200MHzの間です。(既定値: Auto)

☞ CPU Clock Ratio

取り付けたCPUのクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けるCPUによって異なります。

☞ CPU Frequency

現在作動しているCPU周波数を表示します。

▶ Advanced CPU Core Features (アドバンスト CPU コア機能)



⌚ CPU Clock Ratio, CPU Frequency

上の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。

⌚ Internal CPU PLL Overvoltage

Enabled では、CPU PLL 電圧をより高い値で操作できます。Disabled では、CPU PLL 電圧を既定値で操作できます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⌚ Intel(R) Turbo Boost Technology (注)

Intel CPU Turbo Boost テクノロジーを有効にするかどうかを決定します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⌚ Turbo Ratio (1-Core Active~4-Core Active) (注)

さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。Auto では、CPU 仕様に従って CPU Turbo 比を設定します。(既定値: Auto)

⌚ Turbo Power Limit (Watts)

CPU Turboモードの電力制限を設定できます。CPU の消費電力がこれらの指定された電力制限を超えると、CPU は電力を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Auto では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)

⌚ Core Current Limit (Amps)

CPU Turbo モードの電流制限を設定できます。CPU の電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPU は電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Auto では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)

⌚ CPU Core Enabled (注)

すべての CPU コアを有効にするかどうかを決定できます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ☞ **Hyper-Threading Technology** (注1)
この機能をサポートする Intel CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーを有効にするかどうかを決定できます。この機能は、マルチプロセッサ モードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注1)
システム一時停止状態時の省電力機能である、Intel CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧はシステムの停止状態の間、消費電力を抑えます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **C3/C6 State Support** (注1)
システムが停止状態になっているとき、CPU が C3/C6 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧はシステムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3/C6 状態は、C1 より省電力状態がはるかに強化されています。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU Thermal Monitor** (注1)
CPU 過熱保護機能である Intel CPU Tharmal Monitor 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU が過熱すると、CPU コア周波数と電圧が下がります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU EIST Function** (注1)
エンハンスト Intel SpeedStep テクノロジー (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU 負荷によっては、Intel EIST 技術は CPU 電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** (注2)
BIOS が XMP メモリモジュールの SPD データを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶ Profile1 プロファイル 1 設定を使用します。
 - ▶ Profile2 (注2) プロファイル 2 設定を使用します。
- ☞ **System Memory Multiplier**
システム メモリマトリチプライヤの設定が可能になります。Auto は、メモリの SPD データに従ってメモリマトリチプライヤを設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Memory Frequency (MHz)**
初期設定のメモリ周波数の値と System Memory Multiplier 設定によって自動的に調整されるメモリ周波数が表示されます。

(注1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

▶ Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)



- ☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)^(注)**、**System Memory Multiplier**、**Memory Frequency (MHz)**
上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。
- ☞ **Performance Enhance**
システムは、異なる3つのパフォーマンス レベルで動作できるようになります。
 ▶ Normal システムを基本のパフォーマンス レベルで動作させます。
 ▶ Turbo 良好なパフォーマンスレベルでシステムを操作します。(既定値)
 ▶ Extreme 最高のパフォーマンスレベルでシステムを操作します。
- ☞ **DRAM Timing Selectable**
Quick と Expert では、**Channel Interleaving**、**Rank Interleaving**、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション: Auto (既定値)、Quick、Expert。
- ☞ **Profile DDR Voltage**
非 XMP メモリモジュールを使用しているとき、または **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** が Disabled に設定されているとき、この項目は 1.50V として表示されます。Extreme Memory Profile (X.M.P.) が Profile 1 または Profile 2 に設定されているとき、この項目はXMPメモリのSPDデータに基づく値を表示します。
- ☞ **Profile VTT Voltage**
ここに表示される値は、使用されるCPUによって異なります。
- ☞ **Channel Interleaving**
メモリチャンネルのインターリービングの有効/無効を切り替えます。Enabled化すると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Rank Interleaving**
メモリランクのインターリービングの有効/無効を切り替えます。Enabled にすると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

▶ Channel A/B Timing Settings



このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリタイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、DRAM Timing Selectable が Quick または Expert の場合のみ設定可能です。
注：メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ Advanced Voltage Settings (高度な電圧設定)



▶ 3D Power Control (3D 電力制御)



☞ PWM Phase Control

CPUの負荷によってPWMフェーズを自動的に変更できるようになります。省電力レベル(低い方から高い方へ): eXtreme Perf(極度のパフォーマンス)、High Perf(高パフォーマンス)、Perf(パフォーマンス)、Balanced(バランス)、Mid PWR(標準電力)、およびLite PWR(低電力)。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ Vcore Voltage Response

プリセットレベルでVcore変更の応答時間を設定できます。

- » Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- » Standard~Fast Vcore変更に対する異なるレベルの応答時間を作ります StandardまたはFastから選択します。

☞ Vcore Loadline Calibration

Vcoreのロードラインキャリブレーションのレベルを設定できます。レベルは次のとおりです(高い方から低い方へ): Extreme、Turbo、High、Medium、Low、またはStandard。より高いレベルを選択すると、高負荷状態でのBIOSの設定内容とVcoreがより一致します。Autoでは、BIOSにこの設定を自動的に設定させ、Intelの仕様に従って電圧を設定します。(既定値: Auto)

☞ GFX Voltage Loadline Calibration

GFX電圧のロードラインキャリブレーションのレベルを設定できます。レベルは次のとおりです(高い方から低い方へ): High、Medium、Low、またはStandard。より高いレベルを選択すると、高負荷状態でのBIOSの設定内容とGFX電圧がより一致します。Autoでは、BIOSにこの設定を自動的に設定させ、Intelの仕様に従って電圧を設定します。(既定値: Auto)

☞ Vcore Protection

過電圧保護のために、Vcoreに電圧限度を設定できます。調整可能な範囲は150.0mV~300.0mVの間です。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ **Vcore Current Protection**

Vcoreの過電流保護レベルを設定できます。

- » Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- » Standard~Extreme Standard、Low、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらはVcoreの異なる過電流保護レベルを表しています。

☞ **GFX Current Protection**

GFX電圧の過電流保護レベルを設定できます。

- » Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- » Standard~Extreme Standard、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらはGFX電圧の異なる過電流保護レベルを表しています。

☞ **Vcore PWM Thermal Protection**

Vcore 領域に PWM 熱保護のしきい値を設定できます。調整可能な範囲は130.0°C と 135.0°C の間です。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

▶ **CPU Core Voltage Control (CPU コア電圧制御)**

このセクションでは、CPU 電圧制御オプションについて記載します。

▶ **DRAM Voltage Control (DRAM 電圧制御)**

このセクションでは、メモリ電圧制御オプションについて記載します。

▶ PC Health Status



⇨ Reset Case Open Status

- ▶ Disabled 以前のシャーシ侵入状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- ▶ Enabled 以前のシャーシ侵入状態の記録を消去します。次回起動時、Case Open フィールドに「No」と表示されます。

⇨ Case Open

マザーボードの CI ヘッダにアタッチされたシャーシ侵入検出デバイスの検出状態を表示します。システム シャーシのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。シャーシへの侵入状態の記録を消去したい場合は、Reset Case Open Status を Enabled にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

- ☞ **CPU Vcore/Dram Voltage/+3.3V/+12V**
現在のシステム電圧を表示します。
- ☞ **CPU/System Temperature**
現在の CPU/システムの温度を表示します。
- ☞ **CPU/System FAN Speed**
現在のCPU/システムのファン速度を表示します。
- ☞ **CPU Warning Temperature**
CPU 温度警告のしきい値を設定します。CPU の温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警告音を発します。オプション：Disabled(既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。
- ☞ **CPU/System Fan Fail Warning**
CPU ファンまたはシステム ファンが接続されているか障害がある場合、システムは警告を発します。これが発生した場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値：Disabled)
- ☞ **CPU Fan Speed Control**
CPU ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整するかどうかを決定します。
 - » Normal CPU 温度に従って異なる速度で CPU ファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - » Silent CPU ファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、CPU ファンの速度をコントロールします。
 - » Disabled CPU ファンを全速で作動します。
- ☞ **Slope PWM**
CPU ファン速度をコントロールします。CPU Fan Speed Control が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション：0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **1st System Fan Speed Control (SYS_FAN1 コネクター)**
SYS_FAN1コネクターに接続されたシステムファンに対するシステムファンの速度制御機能を有効にするかどうかを決定して、ファン速度を調整できます。
 - » Normal システムファンは、システム温度に応じて可変速で動作します。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - » Silent システムファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、システムファンの速度をコントロールします。
 - » Disabled システムファンを全速で作動します。
- ☞ **Slope PWM**
システムファン速度をコントロールします。1st System Fan Speed Control が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション：0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **2nd System Fan Speed Control (SYS_FAN2 コネクター)**
SYS_FAN2 コネクターに接続されたシステムファンに対するシステムファンの速度制御機能を有効にするかどうかを決定して、ファン速度を調整できます。
 - » Normal システムファンは、システム温度に応じて可変速で動作します。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - » Silent システムファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、システムファンの速度をコントロールします。
 - » Disabled システムファンを全速で作動します。
- ☞ **Slope PWM**
システムファン速度をコントロールします。2nd System Fan Speed Control が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション：0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

▶ Miscellaneous Settings (その他の設定)



☞ PEG - Gen X

PCI Expressスロットの操作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の操作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。例えば、PCI Express x1スロットは、Gen 2モードまでのみサポートしています。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ Legacy BenchMark Enhancement

一部の従来のベンチマーク性能を拡張するかどうかを決定できます。(既定値: Disabled)

2-4 System (システム)



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報について記載します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時間を設定することもできます。

☞ System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

☞ System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで希望する値を設定します。

☞ System Time

システムの時間を設定します。時間の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで希望する値を設定します。

☞ Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセス レベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では Administrator (管理者) として表示されます。) 管理者 レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することができます。ユーザー レベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

▶ ATA Port Information (ATA ポート情報)

このセクションでは、Intel Z77 チップセットで制御された各 SATA ポートに接続されたデバイスの情報について記載します。各SATAポートを有効/無効にするか、またはホットプラグ機能を有効/無効にすることができます。

2-5 BIOS Features (BIOS の機能)



Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。例えば、ハードドライブを優先度1(Boot Option #1)に設定し、DVD ROM ドライブを優先度2(Boot Option #2)に設定します。リストは、特定のタイプに対して最高の優先度が付いたデバイスのみを表示します。例えば、Hard Drive BBS Priorities サブメニューで優先度1と設定されたハードドライブのみがここに表示されます。

起動デバイスリストでは、GPT形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPTパーティショニングをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 7(64ビット)などGPTパーティショニングをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7(64ビット)インストールディスクを挿入した前に「UEFI:」が付いた光ドライブを選択します。

Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスクドライブ、LAN機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイスタイプの起動順序を指定します。このアイテムで<Enter>を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。少なくともこのタイプのデバイスが1個インストールされている場合のみ、この項目が表示されます。

Bootup NumLock State

POST後にキーボードの数字キーパッドにあるNumLock機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

Security Option

パスワードは、システムが起動するたびに必要か、またはBIOSセットアップに入るときのみ必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOSメインメニューのSet Supervisor/User Passwordアイテムの下でパスワードを設定します。

- » Setup パスワードはBIOSセットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- » System パスワードは、システムを起動したりBIOSセットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

- ☞ **Full Screen LOGO Show**
システム起動時に、GIGABYTEロゴを表示するかどうかを決定します。Disabledにすると、システム起動時にGIGABYTEロゴをスキップします。(既定値:Enabled)
- ☞ **Limit CPUID Maximum** (注)
CPUID最大値を制限するかどうかを決定します。Windows XPではこのアイテムをDisabledに設定し、Windows NT4.0など従来のオペレーティングシステムではEnabledに設定します。(既定値:Disabled)
- ☞ **Execute Disable Bit** (注)
Intel Execute Disable Bit (Intelメモリ保護)機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと一緒に使用することでウイルスの放出および悪意のあるバッファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値:Enabled)
- ☞ **Intel Virtualization Technology** (注)
Intel Virtualizationテクノロジーの有効/無効を切り替えます。Intel仮想化技術によって強化された仮想化では、プラットフォームが独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値:Disabled)
- ☞ **VT-d** (注)
Directed I/O用Intel Virtualizationテクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **Network stack**
Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disable Link)
- ☞ **Ipv4 PXE Support**
IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。Network stackが有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- ☞ **Ipv6 PXE Support**
IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。Network stackが有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- ☞ **Administrator Password**
管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で<Enter>を押し、パスワードをタイピングし、続けて<Enter>を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter>を押します。システム起動時およびBIOSセットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザーパスワード)を入力する必要があります。ユーザーパスワードと異なり、管理者パスワードではすべてのBIOS設定を変更することができます。
- ☞ **User Password**
ユーザー パスワードの設定が可能になります。この項目で<Enter>を押し、パスワードをタイピングし、続けて<Enter>を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter>を押します。システム起動時およびBIOSセットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザー パスワード)を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定のBIOS設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で<Enter>を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで<Enter>を押します。確認を求められたら、再度<Enter>を押します。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

2-6 Peripherals (周辺機器)

GIGABYTE - UEFI DualBIOS

Peripherals

SATA Controller(s)

- SATA Mode Selection: Enabled (AHCI)
- MHCI Pre-Boot Driver: Enabled
- xHCI Mode: Auto
- HS Port #1 Switchable: Enabled
- HS Port #2 Switchable: Enabled
- HS Port #3 Switchable: Enabled
- HS Port #4 Switchable: Enabled
- xHCI Streams: Enabled
- USB2.0 Controller: Enabled
- Audio Controller: Enabled
- Init Display First: Auto
- Internal Graphics: Auto
- Internal Graphics Memory Size: 64M
- DORT Total Memory Size: MAX
- Intel(R) Rapid Start Technology: Disabled
- Legacy USB Support: Enabled
- MHCI Hand-off: Enabled
- EHCI Hand-off: Disabled

Legacy USB Support

- xHCI Streams: Enabled
- USB2.0 Controller: Enabled
- Audio Controller: Enabled
- Init Display First: Auto
- Internal Graphics: Auto
- Internal Graphics Memory Size: 64M
- DORT Total Memory Size: MAX
- Intel(R) Rapid Start Technology: Disabled
- Legacy USB Support: Enabled
- MHCI Hand-off: Enabled
- EHCI Hand-off: Disabled
- Port 60/64 Emulation: Disabled
- USB Storage Devices:
 - USB 2.0 USB Flash Drive 0.00: Auto
 - Trusted Computing:
 - Unboard LDM Controller#1: Enabled
 - Intel(R) Thunderbolt: Enabled
 - Intel(R) Smart Connect Technology: Enabled

Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

Legend:

- +: Select Screen ↑/Click: Select Item
- Enter/dbl Click: Select
- /+/Up/Down Click: Change Opt.
- F1 : 3D Mode
- F5 : Previous Values
- F7 : Optimized Defaults
- F8 : Q-Flash
- F9 : System Information
- F10 : Save & Exit
- F12 : Print Screen(FAT16/32 Format Only)
- ESC/Right Click: Exit

☞ SATA Controller(s)

統合されたSATAコントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ SATA Mode Selection

Intel Z77 チップセットに統合された SATA コントローラ用の RAID の有効 / 無効を切り替えるか、SATA コントローラを AHCI モードに構成します。

- » IDE SATA コントローラを IDE モードに構成します。
- » RAID SATAコントローラに対してRAIDを有効にします。
- » AHCI SATA コントローラを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが NCQ (ネイティヴ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどのアドバンストシリアルATA機能を有效地にできるインターフェイス仕様です。(既定値)

- ☞ **xHCI Pre-Boot Driver**
 - » Enabled USB 3.0 ポートは、OS の起動前に xHCI コントローラーにルーティングします。(既定値)
 - » Disabled USB3.0ポートは、OSの起動前にEHCIコントローラーにルーティングします。下記のxHCI ModeをSmart Autoに設定する場合はこの項目をEnabledにします。この項目をDisabledにすると、xHCI Modeは自動的にAutoに設定されます。
- ☞ **xHCI Mode**

OSのxHCIコントローラーのオペレーティングモードを決定できます。

 - » Smart Auto BIOSがブート前環境でxHCIコントローラーをサポートしている場合のみこのモードが使用可能です。このモードはAutoに類似していますが、ブート前環境で(非G3ブートの場合)前回ブート時に使用した設定に従ってxHCIまたはEHCIにポートをルーティングする機能を追加します。OSの起動前にUSB 3.0デバイスの使用が可能になります。前回のブートでポートをEHCIにルーティングした場合、xHCIコントローラーの有効化とリルーティングは、Autoのステップに従って行います。注: BIOSがxHCIの起動前サポートに対応している場合に推奨するモードです。
 - » Auto BIOSは、共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングします。続いて、ACPIプロトコルを用いてxHCIコントローラーの有効化と共有ポートのリルーティングを可能にするオプションを提供します。注: BIOSがxHCIのブート前サポートに対応していない場合に推奨するモードです。(既定値)
 - » Enabled 結果として、すべての共有ポートがBIOSの起動プロセス中にxHCIコントローラーにルーティングされます。BIOSがxHCIコントローラーの起動前サポートに対応していない場合、最初は共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングし、その後OSブートの前にポートをxHCIコントローラーにルーティングする必要があります。注: このモードではOSがxHCIコントローラーにサポートしている必要があります。OSがサポートしていない場合、すべての共有ポートが動作しません。
 - » Disabled USB 3.0ポートはEHCIコントローラーにルーティングし、xHCIコントローラーをオフにします。すべてのUSB 3.0デバイスは、xHCIソフトウェアのサポートが使用可能かに関係なく高速デバイスとして機能します。この項目をDisabledに設定すると、下記項目 HS Port #1/2/3/4 Switchable と xHCI Streams は構成不能になります。
- ☞ **HS Port #1 Switchable~HS Port #4 Switchable**
 - » Enabled 関連するUSB 3.0ポートはxHCIにルーティングされます。超高速機能付きポートにアタッチされたUSB3.0 デバイスが xHCI コントローラーに表示できます。(既定値)
 - » Disabled 関連するUSB 3.0ポートはEHCIにルーティングされます。この超高速機能付きポートにアタッチされたUSB 3.0デバイスは高速として機能します。
- ☞ **xHCI Streams**

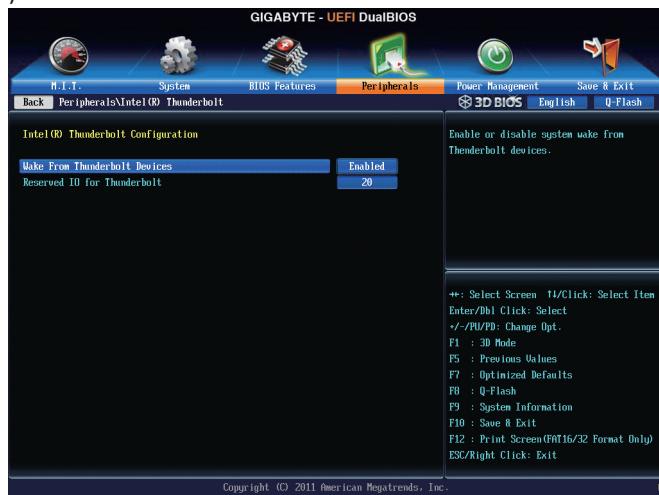
マルチストリームデータ転送を有効または無効にします。注: Windows 7 USB 3.0ストリームサポートでは、Intel USB 3.0ストリームサポートと完全に互換性があるようにするために、デバイスはUASPドライバのベンダーからUASPクラスドライバを更新する必要があります。(既定値: Enabled)
- ☞ **USB2.0 Controller**

統合されたUSB 2.0/1.1コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Audio Controller**

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。

- ☞ **Init Display First**
取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。
 - » Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - » IGFX 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
 - » PEG 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットで PCI Express グラフィックカードを設定します。
- ☞ **Internal Graphics**
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)
- ☞ **Internal Graphics Memory Size**
オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション: 32M~1024M。(既定値: 64M)
- ☞ **DVMT Total Memory Size**
オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当てるすることができます。オプション: 128M、256M、MAX。(既定値: MAX)
- ☞ **Intel(R) Rapid Start Technology**
Intel Rapid Start テクノロジーを有効または無効にします。SSD が取り付けられている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値: Disabled)
- ☞ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値: Enabled)
- ☞ **XHCI Hand-off**
XHCIハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの XHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値: Enabled)
- ☞ **EHCI Hand-off**
EHCIハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの EHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値: Disabled)
- ☞ **Port 60/64 Emulation**
入出力ポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボードまたはマウスをフル レガシ サポートするにはこれを有効にします。(既定値: Disabled)
- ☞ **USB Storage Devices**
接続されたUSB大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
- ▶ **Trusted Computing**
- ☞ **TPM SUPPORT**
Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。TPMデバイスが取り付けられている場合はこの項目を **Enable** に設定します。(既定値: Disable)
- ☞ **OnBoard LAN Controller#1**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製アドインネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

▶ Intel(R) Thunderbolt



⌚ Wake From Thunderbolt Devices (Thunderboltデバイスからの起動)

Thunderboltデバイスのウェイクアップイベントによりシステムの電源をオンにすることができます。(既定値: Enabled)

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

⌚ Reserved IO for Thunderbolt (Thunderbolt用のI/Oリソース確保)

Thunderboltデバイスに対してどの程度のI/Oリソースを確保するかを指定します。オプション: 4K-48K。(既定値: 20K)

20Kに設定した場合、各Thunderboltポートは3台前後のThunderboltデバイスでデイジーチェーン接続できます。サイズが大きくなるほど多くのThunderboltデバイスを使用できます。各Thunderboltポートは最大6台のデバイスをサポートしています(注)。

▶ Intel(R) Smart Connect Technology (Intel(R) Smart Connect テクノロジー)

⌚ ISCT Configuration

Intel Smart Connect Technology の有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

(注) PCアーキテクチャのI/Oリソース制限により、使用できるThunderboltデバイスの数量は、インストールされたPCI ExpressとPCIデバイスの数量に依存します。PCI Expressグラフィックカードがインストールされている場合、Reserved IO for Thunderboltを40K以下に設定することをお勧めします。

2-7 Power Management (電力管理)



⌚ Resume by Alarm

希望の時間に、システムの電源をオンにするかどうかを決定します。(既定値:Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

⇒ Wake up day:ある月の毎日または特定日の特定の時間にシステムをオンにします。

⇒ Wake up hour/minute/second:自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注:この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたはAC電源の取り外しを避けます。そうしない場合設定が有効にならないことがあります。

⌚ ErP

S5(シャットダウン)状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値:Disabled)

注:このアイテムをEnabledに設定すると、次の機能が使用できなくなります。PMEイベント呼び起こし、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN上での呼び起こし。

⌚ High Precision Event Timer (注)

Windows7 の High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

⌚ Soft-Off by PWR-BTTN

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする方法を設定します。

⇒ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)

⇒ Delay 4 Sec 電源ボタンを 4 秒間長押しすると、システムの電源がオフになります。パワー ボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

⌚ Internal Graphics Standby Mode

オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値:Enabled)

⌚ Internal Graphics Deep Standby Mode

オンボードグラフィックスをディープスタンバイモードに入れるかどうかを決定できます。(既定値:Enabled)

⌚ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

- » Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
- » Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- » Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままで。(既定値)

⌚ Power On By Keyboard

PS/2 キーボードの呼び起こし イベントによりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- » Password 1~5 文字でシステムをオンスするためのパスワードを設定します。
- » Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
- » Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。

⌚ Power On Password

Power On by Keyboard が Password に設定されているとき、パスワードを設定します。

この項目で <Enter> を押し、最大5文字でパスワードを設定します。次に <Enter> を押して承諾します。システムの電源をオンにするには、パスワードを入力して <Enter> を押します。

注: パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

⌚ Power On By Mouse

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- » Move マウスを移動させてシステムの電源をオンにします。
- » Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

(注) Windows 7 オペレーティングシステムでのみサポートされます。

2-8 Save & Exit (保存して終了)



☞ Save & Exit Setup

この項目で **<Enter>** を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No**を選択するかまたは **<Esc>** を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

☞ Exit Without Saving

この項目で **<Enter>** を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No**を選択するかまたは **<Esc>** を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

☞ Load Optimized Defaults

この項目で **<Enter>** を押し、**Yes**を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

☞ Boot Override

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで **<Enter>** を押し、**Yes**を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。

☞ Save Profiles

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1～セットアッププロファイル 8 として保存することができます。**<Enter>**を押して終了します。または**Select File in HDD/USB/FDD**を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。

☞ Load Profiles

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避ることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、**<Enter>** を押して完了します。**Select File in HDD/USB/FDD**を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後のBIOS設定(最後の既知の良好レコード)に戻すなど、BIOSが自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 ドライバのインストール

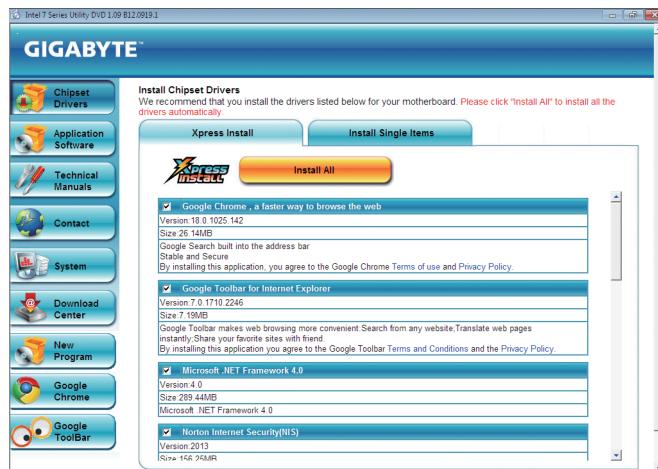


- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバを光学のドライブに挿入します。ドライバの自動実行画面は、以下のスクリーンショットのように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行画面が自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

3-1 Installing Chipset Drivers (チップセットドライバのインストール)



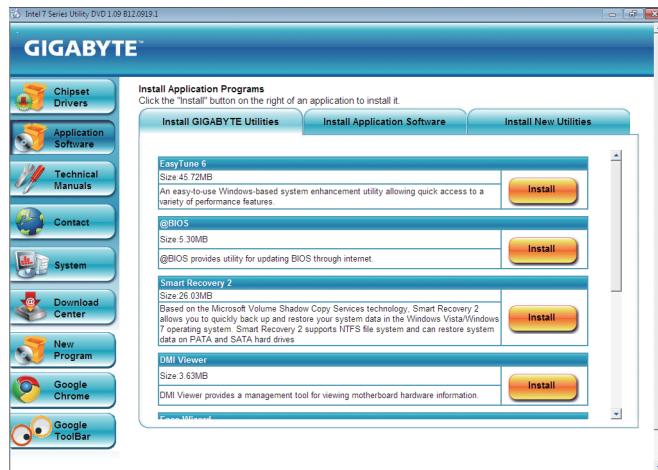
ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。Install All ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライブをインストールします。または、Install Single Items をインストールしてインストールするドライバを手動で選択します。



- 「Xpress Install」がドライバをインストールしているときに表示されるポップアップダイアログボックス(たとえば、Found New Hardware Wizard)を無視してください。そうでないと、ドライバのインストールに影響を及ぼす可能性があります。
- デバイスドライバには、ドライバのインストールの間にシステムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、「Xpress Install」がその他のドライバを引き続きインストールします。
- 「Xpress Install」がすべてのドライバをインストールすると、新しいGIGABYTEユーティリティをインストールするかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。Yes をクリックするとユーティリティが自動的にインストールされます。または、ユーティリティを手動で選択して Application Software ページで、後でインストールする場合は、No をクリックします。
- Windows XP オペレーティングシステム下で USB 2.0 ドライバをサポートする場合、Windows XP Service Pack 1 以降をインストールしてください。SP1 以降をインストールした後、Universal Serial Bus Controller で Device Manager、にクエスチョンマークがまだ付いている場合、(マウスを右クリックし Uninstall を選択して) クエスチョンマークを消してからシステムを再起動してください。(システムは USB 2.0 ドライバを自動検出してインストールします。)

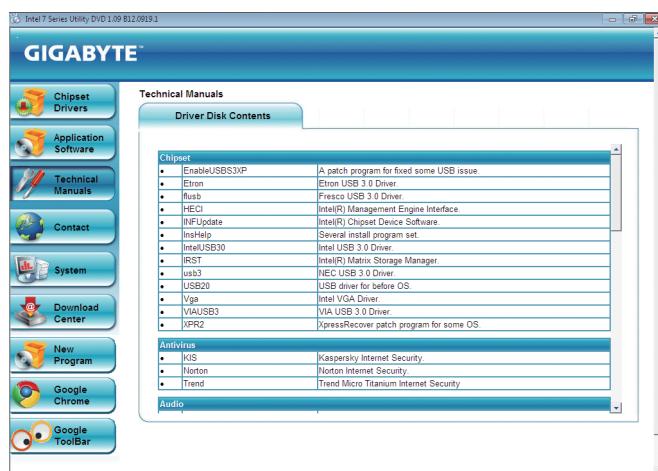
3-2 Application Software (アプリケーションソフトウェア)

このページでは、GIGABYTE が開発したすべてのユーティリティとアプリケーション、および一部の無償ソフトウェアが表示されます。アイテムの右にある **Install** ボタンをクリックして、そのアイテムをインストールできます。



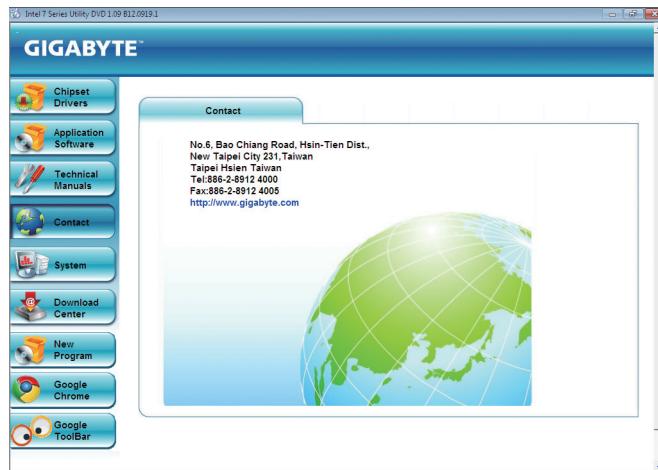
3-3 Technical Manuals (技術マニュアル)

このページでは、ドライバディスクの内容について説明します。



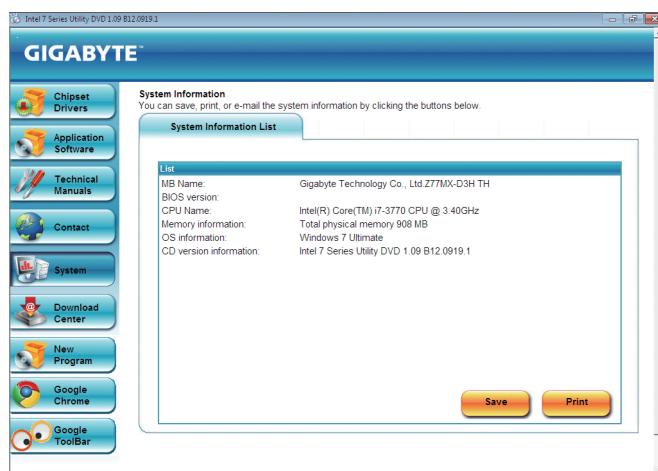
3-4 Contact (連絡先)

このページの URL をクリックすると GIGABYTE の Web サイトにリンクされます。または、このマニュアルの最後のページをお読みになり、GIGABYTE 台湾本社または全世界の支社の連絡先情報を確認してください。



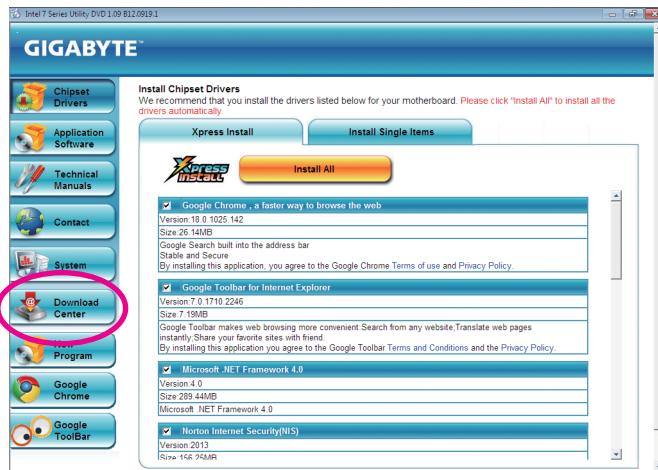
3-5 System (システム)

このページでは、基本システム情報をご紹介します。



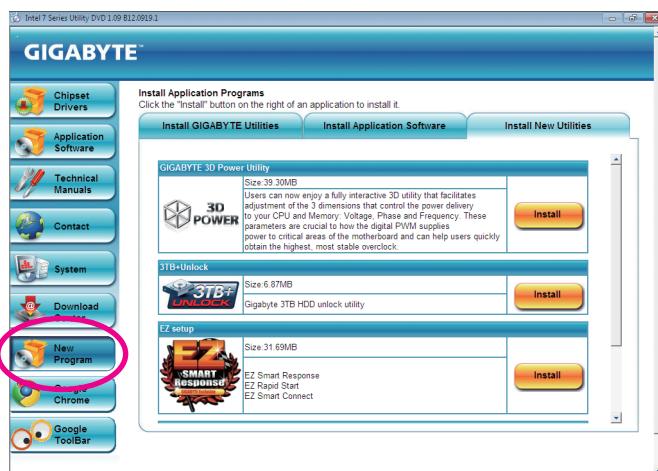
3-6 Download Center (ダウンロードセンター)

BIOS、ドライバ、またはアプリケーションを更新するには、Download Center ボタンをクリックして GIGABYTE の Web サイトにリンクします。BIOS、ドライバ、またはアプリケーションの最新バージョンが表示されます。



3-7 New Program (新プログラム)

このページでは、ユーザーのインストール向けに GIGABYTE が最近開発したユーティリティに素早くリンクできます。アイテムの右にある Install ボタンをクリックして、そのアイテムをインストールできます。



第4章 固有の機能

4-1 BIOS 更新ユーティリティ

GIGABYTE マザーボードには、Q-Flash™ と @BIOS™ の 2 つの固有 BIOS 更新が含まれています。GIGABYTE Q-Flash と @BIOS は使いやすく、MSDOS モードに入らずに BIOS を更新することができます。さらに、このマザーボードは DualBIOS™ 設計を採用して、物理 BIOS チップをさらに 1 つ追加することによって保護を強化しコンピュータの安全と安定性を高めています。



DualBIOS™とは？

デュアル BIOS をサポートするマザーボードには、メイン BIOS とバックアップ BIOS の 2 つの BIOS が搭載されています。通常、システムはメイン BIOS で作動します。ただし、メイン BIOS が破損または損傷すると、バックアップ BIOS が次のシステム起動を引き継ぎ、BIOS ファイルをメイン BIOS にコピーし、通常にシステム操作を確保します。システムの安全のために、ユーザーはバックアップ BIOS を手動で更新できないようになっています。



Q-Flash™とは？

Q-Flashがあれば、MS-DOSやWindowのようなオペレーティングシステムに入らずに BIOS システムを更新できます。BIOS に組み込まれた Q-Flash ツールにより、複雑な BIOS フラッシングプロセスを踏むといった煩わしさから開放されます。



@BIOS™とは？

@BIOS により、Windows 環境に入っている間にシステム BIOS を更新することができます。@BIOS は一番近い @BIOS サーバーサイトから最新の @BIOS ファイルをダウンロードし、BIOS を更新します。

4-1-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ファイルを抽出し、新しい BIOS (Z77MXD3HTH.F1など) をお使いのUSBフラッシュドライブまたはUSBハードドライブに保存します。注：USB フラッシュドライブまたはハードドライブは、FAT32/16/12 ファイルシステムを使用する必要があります。
3. システムを再起動します。POST の間、<End> キーを押して Q-Flash に入ります。注：POST中に <End> キーを押すことによって、または BIOS セットアップで <F8> キーを押すことによって、Q-Flash にアクセスすることができます。ただし、BIOS更新ファイルがRAID/AHCIモードのハードドライブまたは独立したSATAコントローラに接続されたハードドライブに保存された場合、POSTの間に<End>キーを使用してQ-Flashにアクセスします。



BIOSの更新は危険性を含んでいるため、注意して行ってください。BIOSの不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。

B. BIOS を更新する

BIOS を更新しているとき、BIOS ファイルを保存する場所を選択します。次の手順では、BIOS ファイルをフロッピーディスクに保存していると仮定しています。

ステップ 1:

1. BIOS ファイルを含むフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。Q-Flash のメインメニューで、**Update BIOS from Drive** を選択します。



- **Save BIOS to Drive** オプションにより、現在の BIOS ファイルを保存することができます。
- Q-Flash は FAT32/16/12 ファイルシステムを使用して、USB フラッシュドライブまたはハードドライブのみをサポートします。
- BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立したSATA コントローラに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。

2. **USB Flash Drive** を選択します。



3. BIOS 更新ファイルを選択します。



BIOS 更新ファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。

ステップ 2:

フロッピーディスクから BIOS ファイルを読み込むシステムのプロセスは、スクリーンに表示されます。「BIOSを更新しますか?」というメッセージが表示されたら、**Yes** を選択して BIOS 更新を開始します。モニタには、更新プロセスが表示されます。



- システムが BIOS を読み込み/更新を行っているとき、システムをオフにしたり再起動したりしないでください。
- システムが BIOS を更新しているとき、フロッピーディスク、USB フラッシュドライブ、またはハードドライブを取り外さないでください。

ステップ 3:

更新プロセスが完了したら**Reboot** を選択してシステムを再起動します。



ステップ4:

POST中に、<Delete>キーを押して BIOS セットアップに入ります。Save & Exit 画面で Load Optimized Defaults を選択し、<Enter>を押して BIOS デフォルトをロードします。BIOS が更新されるとシステムはすべての周辺装置を再検出するため、BIOS デフォルトを再ロードすることをお勧めします。



Yes を選択して BIOS デフォルトをロードします

ステップ5:

Save & Exit Setup を選択し、<Enter>を押します。Yes を選択して CMOS に設定を保存し、BIOS セットアップを終了します。システムの再起動後に手順が完了します。

4-1-2 @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. Windows で、すべてのアプリケーションと TSR(メモリ常駐型)プログラムを閉じます。これにより、BIOS 更新を実行しているとき、予期せぬエラーを防ぐのに役立ちます。
2. BIOS 更新プロセスの間、インターネット接続が安定しており、インターネット接続が中断されないことを確認してください（たとえば、停電やインターネットのスイッチオフを避ける）。そうしないと、BIOS が破損したり、システムが起動できないといった結果を招きます。
3. @BIOS を使用しているとき、G.O.M.(GIGABYTE オンライン管理)機能を使用しないでください。
4. 不適切な BIOS 更新に起因する BIOS 損傷またはシステム障害は GIGABYTE 製品の保証の対象外です。

B. @BIOSを使用する



1. インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する：

Update BIOS from GIGABYTE Server をクリックし、一番近い@BIOS サーバーを選択し、お使いのマザーボードモデルに一致する BIOS ファイルをダウンロードします。オンスクリーンの指示に従って完了してください。

マザーボードの BIOS 更新ファイルが @BIOS サーバーサイトに存在しない場合、GIGABYTE の Web サイトから BIOS 更新ファイルを手動でダウンロードし、以下の「インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する」の指示に従ってください。

2. インターネット更新機能を使用せずに BIOS を更新する：

Update BIOS from File をクリックし、インターネットからまたは他のソースを通して取得した BIOS 更新ファイルの保存場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って完了してください。

3. 現在の BIOS をファイルに保存：

Save Current BIOS to File をクリックして、BIOS ファイルを保存します。

4. BIOS 更新後に BIOS 既定値のロード：

Load CMOS default after BIOS update チェックボックスを選択すると、BIOS が更新されシステムが再起動した後、システムは BIOS デフォルトを自動的にロードします。

C. BIOS を更新した後

BIOS を更新した後、システムを再起動してください。



更新する BIOS ファイルがお使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。間違った BIOS ファイルで BIOS を更新すると、システムは起動しません。

4-2 EasyTune 6

GIGABYTE の EasyTune 6 は使いやすいインターフェイスで、ユーザーが Windows 環境でシステム設定を微調整したりオーバークロック/過電圧を行ったりできます。使いやすい EasyTune 6 インターフェイスには CPU とメモリ情報のタブ付きページも含まれ、ユーザーは追加ソフトウェアをインストールする必要なしに、システム関連の情報を読み取れるようになります。

EasyTune 6 のインターフェイス



タブ情報

| タブ | 機能 |
|------------|--|
| CPU | CPU タブでは、取り付けた CPU とマザーボードに関する情報が得られます。 |
| Memory | Memory タブでは、取り付けたメモリモジュールに関する情報が得られます。特定スロットのメモリモジュールを選択してその情報を見ることができます。 |
| Tuner | Tuner タブでは、メモリ設定と電圧を変更します。 <ul style="list-style-type: none">Quick Boost mode は、ユーザーが目的のシステムパフォーマンスを達成できるように、3 レベルの CPU 周波数/ベースクロックを提供します。Quick Boost mode を変更した後、または Default をクリックしてデフォルト値に戻った後、システムを再起動してこれらの変更を有効にするのを忘れないでください。Easy mode は、CPU メモリに情報を提供します。Advanced mode では、スライダを使用してシステムのクロック設定と電圧設定を個別に変更します。Save では、現在の設定を新しいプロファイル(.txtファイル)で保存します。Load では、プロファイルから以前の設定をロードします。 Easy mode/Advanced mode で変更を行った後、Set をクリックしてこれらの変更を有効にするか、Default をクリックして既定値に戻してください。 |
| Graphics | Auto Tuning ボタンは、システムパフォーマンスを強化するために、もっとも高速で信頼できる周波数を提供します。 |
| Smart | Smart タブでは、スマートファンモードを指定します。Smart Fan Advance Mode では、設定した CPU 温度しきい値に基づいて CPU ファン速度を直線的に変更することができます。 |
| HW Monitor | HW Monitor タブでは、ハードウェアの温度、電圧およびファン速度を監視し、温度/ファン速度アラームを設定します。ユーザーからアラートサウンドを選択したり、独自のサウンドファイル(.wavファイル)を使用できます。 |

EasyTune 6 の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。淡色表示になったエリアは、アイテムが設定できないか、機能がサポートされていないことを示しています。

オーバークロック/過電圧を間違って実行すると CPU、チップセット、またはメモリなどのハードウェアコンポーネントが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。オーバークロック/過電圧を実行する前に、EasyTune 6 の各機能を完全に理解していることを確認してください。そうでないと、システムが不安定になったり、その他の予期せぬ結果が発生する可能性があります。

4-3 Q-Share

Q-Share は簡単で便利なデータ共有ツールです。LAN 接続設定と Q-Share を構成した後、データを同じネットワークのコンピュータと共有し、インターネットリソースの最大限に活用することができます。



Q-Share の使用法

マザーボードドライバディスクから Q-Shareをインストールしたら、Start>All Programs>GIGABYTE>Q-Share.exe を順にポイントして、Q-Share ツールを起動します。タスクバーのQ-Shareアイコンを探し、このアイコンを右クリックしてデータ共有設定を構成します。

Enable Incoming Folder ...
Open Incoming Folder : C:\Q-ShareFolder
Change Incoming Folder : C:\Q-ShareFolder

Disable Incoming Folder ...
Open Incoming Folder : C:\Q-ShareFolder
Update Q-Share ...
About Q-Share ...
Exit ...

図 1.無効になったデータ共有

図 2.有効になったデータ共有

オプションの説明

| オプション | 説明 |
|--|-----------------------------------|
| Connect ... | データ共有を有効にしたコンピュータを表示します |
| Enable Incoming Folder ... | データ共有を有効にする |
| Disable Incoming Folder ... | データ共有を無効にする |
| Open Incoming Folder : C:\Q-ShareFolder | 共有されたデータフォルダへのアクセス |
| Change Incoming Folder : C:\Q-ShareFolder | 共有するデータフォルダを変更 <small>(注)</small> |
| Update Q-Share ... | Q-Share のオンライン更新 |
| About Q-Share ... | 現在の Q-Share バージョンを表示する |
| Exit... | Q-Share の終了 |

(注) このオプションは、データ共有が有効になつていないときにのみ使用できます。

4-4 Smart Recovery 2

Smart Recovery 2により、画像ファイルとしてパーティションを1時間ごとにバックアップできます。これらの画像を使用して、必要なときにシステムやファイルを復元できます。

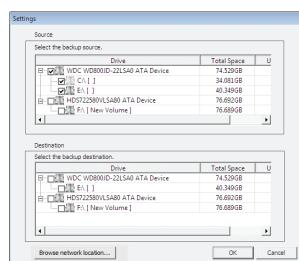


Smart Recovery 2メインメニュー:

| ボタン | 機能 |
|--------------------|-----------------------|
| Settings | ソースと宛先パーティションを選択します |
| Backup Now | 今すぐ、バックアップを実行できます |
| File Recovery... | バックアップ画像からファイルを回復できます |
| System Recovery... | バックアップ画像からシステムを回復できます |



- サポートされるオペレーティングシステム: Windows 7 と Vista。
- Smart Recovery 2はNTFSファイルシステムのみをサポートします。
- Smart Recovery 2を初めて使用するとき、宛先パーティション設定を選択する必要があります。
- Backup Now ボタンは10分間Windowsにログインした後でのみ利用可能です。

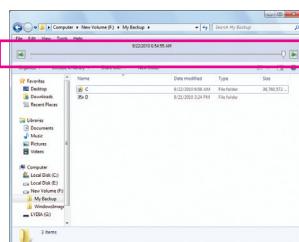


バックアップを作成する:

メインメニューで Settings ボタンをクリックします。Settings ダイアログボックスで、ソースパーティションと宛先パーティションを選択し、OK をクリックします。最初のバックアップは10分後に開始され、定期的バックアップが1時間ごとに実行されます。注:既定値で、システムドライブのすべてのパーティションはバックアップソースとして選択されます。バックアップ宛先をバックアップソースと同じパーティションに置くことはできません。

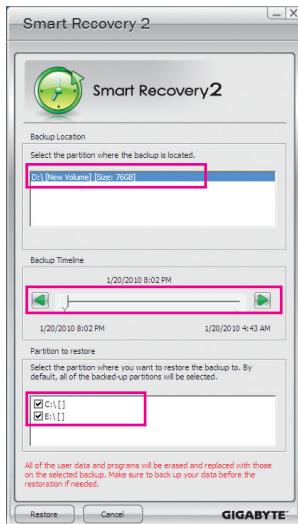
バックアップをネットワークの場所に保存する:

バックアップをネットワークの場所に保存するには、「ネットワークの場所を参照する」を選択します。必ずお使いのコンピューターとバックアップを保存するコンピューターが同じドメインにあるようにします。バックアップを格納し、ユーザー名とパスワードを入力するネットワークの場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って完了してください。



ファイルを回復する:

メインメニューで File Recovery ボタンをクリックします。popupアップ表示されたウインドウ上部のタイムスライダを使用して前のバックアップ時間を選択します。右ペインには、バックアップ宛先のバックアップされたパーティションが (My Backup フォルダに) 表示されます。希望のファイルを閲覧してコピーします。



Smart Recovery 2でシステムを回復します (Windows 7のみ):

ステップ:

1. メインメニューで **System Recovery** ボタンをクリックします。
2. バックアップを保存する場所を選択します。
3. 時間スライダを使用してタイムポイントを選択します。
4. 選択したタイムポイントで作成したパーティションバックアップを選択し、**Restore** をクリックします。
5. システムを再起動して、今すぐ復元を進めるかまたは後で復元を進めるかを確認します。「はい」と答えると、システムは再起動してWindows回復環境に戻ります。オンスクリーンの指示に従ってシステムを回復します。



- Windows Vistaの場合、以下のステップを参照して最初のWindowsインストールディスクを使用し、システム回復を行ってください。
- ファイルとプログラムがすべて削除され、選択したバックアップに置き換えられます。必要に応じて、復元前にデータのコピーを必ず作成してください。

最初のWindowsインストールディスクを使用して、システムを回復する:

Windowsまたはハードドライブに重大なエラーが発生した場合、最初のWindowsインストールディスクを使用してシステムを回復します。

ステップ:

1. コンピュータを再起動して、最初のWindowsインストールディスクから起動します。
2. Windowsインストール画面が表示されたら、言語を選択し **Next** をクリックします。
3. **Repair your computer** を選択します。
4. **Restore your computer using a system image that you created earlier** を選択し、**Next** をクリックします。
5. 使用したいバックアップを選択し、オンスクリーンの指示に従って完了します。



詳細な指示については、Smart Recovery 2のヘルプファイルを参照してください。

4-5 eXtreme Hard Drive (X.H.D)



GIGABYTE eXtreme Hard Drive (X.H.D)^(注1)があると、新しいSATAドライブが追加されるときに、RAID 0に対してRAID対応システムを素早く構成することができます。すでに存在するRAID 0アレイの場合、X.H.Dを使ってハードドライブをアレイに追加して容量を簡単に拡張することもできます。ボタンを1回クリックするだけで、X.H.Dは複雑で時間のかかる構成をせずにハードドライブの読み込み/書き込みパフォーマンスを強化することができます。次の手順は、RAID対応のシステムをセットアップし、それをRAID 0に対して構成することができます。

A. RAID対応システムをセットアップする

ステップ1: システム BIOS の構成

システムBIOSセットアッププログラムに入り、Intel SATAコントローラのRAIDを有効にします。

ステップ2: RAID ドライバとオペレーティングシステムのインストール

X.H.DユーティリティはWindows 7/XPをサポートします。オペレーティングシステムをインストールする前に、まずSATAコントローラドライバをロードする必要があります。ドライバがない場合は、Windowsセットアッププロセスの間ハードドライブは認識されません。(詳細については、第5章「SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールする」を参照してください。)

ステップ3: マザーボードドライバとX.H.Dユーティリティのインストール

オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバディスクを挿入します。Xpress Install Allボタンをクリックして、X.H.Dユーティリティを含め、マザーボードドライバをすべて自動的にインストールします。または、Application Software画面に移動してX.H.Dユーティリティを後で個別にインストールすることもできます。

B. GIGABYTE eXtreme Hard Drive (X.H.D) を使用する



指示^(注2):

X.H.Dを起動する前に、新しく追加したハードドライブがRAID対応のシステムドライブより大きな容量であることを確認します。(新しいハードドライブを以前作成されたRAID 0アレイに追加するには、新しいドライブがアレイで最大のドライブより大きいことを確認します。)

- Auto RAID 0 アレイを自動的にセットアップする:**
Auto(自動)をクリックすると、RAID 0アレイを自動的に素早くセットアップします。
- Manual RAID アレイを手動でセットアップする^(注3):**
Manual(手動)をクリックしてIntel Matrixストレージコンソールにアクセスすると、ニーズとハードウェアコンポーネントに応じて、RAID 0、RAID 1、またはその他のサポートされるRAIDアレイを構築することができます。
- Cancel X.H.D ユーティリティを終了する:**
Cancel(キャンセル)をクリックしてX.H.Dユーティリティを終了します。

- (注1) X.H.Dユーティリティは、Intelチップセットに統合されたSATAコントローラのみをサポートします。
(注2) X.H.Dユーティリティを実行する前に、ハードウェアが損傷したりデータが失われたりすることがないように、すべてのデータのバックアップを取るようにお勧めします。
(注3) 非RAID 0アレイを手動で構築すると、Auto機能を使用して後でRAID 0アレイ自動的にセットアップすることはできなくなります。

4-6 Auto Green

Auto Green はユーザーに単純なオプションを提供する使いやすいツールで、Bluetooth 携帯電話を通してシステムの省電力を有効にします。電話がコンピュータの Bluetooth レシーバーの範囲外にあるとき、指定された省電力モードに入ります。



構成ダイアログボックス:

まず、Bluetooth 携帯電話をポータブルキーとして設定する必要があります。Auto Green メインメニューで、Configure、Configure BT devices を順にクリックします。ポータブルキーとして使用する Bluetooth 携帯電話を選択します。^(注1) (画面に Bluetooth 携帯電話が表示されない場合、Refresh をクリックして Auto Green でデバイスを再検出します。)

 Bluetooth 携帯電話のキーを作成する前に、マザーボードに Bluetooth レシーバーが組み込まれておらず、電話の検索と Bluetooth 機能をオンにしていることを確認します。

Bluetooth 携帯電話キーの構成:

携帯電話を選択すると、左に示すような Add device が表示されます。携帯電話のペアとして使用するパスキー(8~16桁を推奨)を入力します。お使いの携帯電話に同じパスキーを入力します。

他の Bluetooth 設定を構成する:

Other Settingsタブでは、Bluetooth 携帯電話キーのスキャンに要する時間、コンピュータの範囲に入っていることを確認するためにキーを再スキャンする回数、システムの省エネ状態が事前定義された時間経過した場合ハードドライブをオフにするときを設定できます。設定を完了した後、Set をクリックして設定を有効にし、Exit をクリックして終了します。

- Device Scan Time (sec) (デバイスのスキャン時間(秒)):
Auto Green が Bluetooth 携帯電話キーをスキャンする時間を、5~30 秒まで 5 秒刻みで設定します。Auto Green は設定した時間に基づいてキーを検索します。
- Rescan Times (再スキャン回数):
Auto Green が Bluetooth 携帯電話キーが検出されない場合、キーを再スキャンする回数を 2~5 回まで設定します。Auto Green は、設定した回数に基づいて再スキャンを続けます。制限時間に達しても Bluetooth 携帯電話キーが検出されない場合、選択した省エネモードに入ります。
- Turn off HD (HDをオフにする):
ハードドライブをオフにするときを設定します。システムの非活動時間が指定された制限時間が越えると、ハードドライブはオフになります。

システムの省エネモードを選択する:

ニーズに応じて、[Auto Green] メインメニューでシステムの省エネモードを選択し、Save をクリックして設定を保存します。

| ボタン | 説明 |
|---------|-----------------------|
| Standby | パワーオンサスペンドモードに入ります |
| Suspend | サスPENDトゥ RAM モードに入ります |
| Disable | この機能を無効にします |

 マザーボードパッケージ^(注2)に付属する Bluetooth ドングルにより、まず電源ボタンを押す必要なしに、サスPENDトゥ RAM モードからシステムを呼び起すことができます。

(注1) お使いの携帯電話が「オートグリーン」キーとして構成されている場合、オートグリーンが有効になつていれば携帯電話を他のBluetoothデバイスに接続することはできません。

(注2) Bluetoothドングルが含まれているかどうかは、マザーボードのモデルによって異なります。Bluetooth ドングルを取り付ける前に、コンピュータの他のBluetooth受信器をオフにしていることを確認してください。

4-7 EZ SETUP

EZ SETUPはEZ Smart Response^(注)、EZ Rapid Start、およびEZ Smart Connectユーティリティで構成しています。EZ Setupアプリケーションは、複雑なインストールと構成プロセスから開放し、容易にアプリケーションを使用できるようにします。

EZ Setupのインストール

GIGABYTEマザーボードドライバディスクを挿入したら、Express Installをクリックしてすべてのマザーボードドライバをインストールします。完了したら、New Programメニューに移動し、EZ Setupアプリケーションの右側でInstallをクリックしてインストールします。



EZ Setupの起動

ステップ1:

オペレーティングシステムにいる時に、Start>All Programs\GIGABYTEに移動し、EZ Setupを選択します。(図1)

ステップ2:

インストールするユーティリティを選択してから、Setupをクリックしてインストールを開始します。(図2)

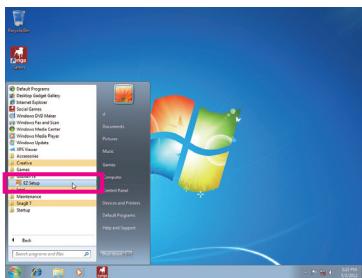


図1



図2

- 詳細構成については、Intel社の文書を参照してください。
- インストール作業中、システムはBIOS設定を行い、必要なドライバをインストールします。システムは自動的に数回再起動します。

(注) Intel B75チップセットではサポートしていません。

4-7-1 EZ Smart Responseのインストール

A. システム要件

1. この機能をサポートするIntelチップセットベースのマザーボード^(注1)
2. Intelコアシリーズプロセッサ
3. BIOSの設定で、SATAコントローラに対してRAIDを有効にする
4. 従来のSATAディスクおよびSSD^(注2)
5. Windows 7 SP1^(注3)

 Smart Response Technologyを設定する前にオペレーティングシステムをすでにインストールしている場合、RAIDモードを有効にすると、ハードディスクの元のデータがすべて失われます。Smart Response Technologyを有効にする前に、ハードディスクのバックアップを取るようお勧めします。

B. インストール

ステップ1:

EZ Smart Responseを選択し、Setupをクリックします。(図1)

ステップ2:

システムが強制的にRAIDモードになることを示す警告メッセージが表示されます。^(注4) Yesを選択すると、システムが再起動します。(図2)

ステップ3:

システム再起動後、Intel Raid Storage Technologyドライバが自動的にインストールされます。ドライバのインストール後、システムは再び再起動します。



図1

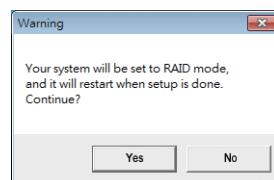


図2

C. EZ Smart Responseの無効化



EZ Smart Responseを無効にするには、**Disable EZ Smart Response**を選択してからSetupをクリックします。

(注1) Intel B75チップセットではサポートしていません。

(注2) SSDは、ハードディスクのキャッシュとして動作します。最大のキャッシュメモリサイズは64 GBです。64 GBより大きな容量のSSDを使用する場合、64 GBを超えるスペースはデータの保存用に使用することができます。

(注3) オペレーティングシステムはSATAディスクにインストールする必要があります。

(注4) BIOS設定にかかわらずIDEまたはAHCIモードになります。システムは強制的にRAIDモードになります。

4-7-2 EZ Rapid Startのインストール

A. システム要件

1. BIOS 設定における Intel Rapid Start Technology の有効化
2. Windows 7 SP1
3. システムメモリの合計よりサイズが大きい SSD
4. AHCI/RAID モードに対応(RAIDアレイのメンバーとして SSD が割り当てられている場合はIntel Rapid Start格納パーティションのセットアップに使用することができませんのでご注意ください。) IDE モードは非対応

B. インストール

ステップ 1:

EZ Rapid Startを選択し、Setupをクリックします。(図 1)

ステップ 2:

システムが強制的にRAIDモードになることを示す警告メッセージが表示されます。(注) Yesを選択すると、システムは再起動し、BIOSセットアップで自動的にIntel Rapid Start Technologyを有効にします。(図 2)

ステップ 3:

システム再起動後、Intel Rapid Start Technology Managerドライバが自動的にインストールされます。ドライバのインストール後、システムは再び再起動します。



図 1

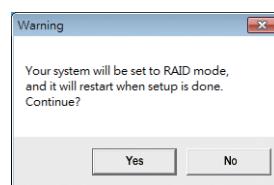


図 2

C. EZ Rapid Startの無効化



EZ Rapid Startを無効にするには、Disable EZ Rapid Startを選択してからSetupをクリックします。



- 既定の圧縮スペースは、システムのメモリサイズ+2GBです。例えば、システムのメモリサイズが8GBの場合、既定の圧縮スペースは8GB+2GBです。よってSSDの容量は10GB減少します。EZ Rapid Startを無効にした場合、減少した10GBはSSDに戻ります。
- システムメモリをアップグレードする場合、まずEZ Rapid Startを無効にしてから、正常動作を保証するため再インストールします。

(注) Intel Z77/H77チップセットマザーボードでは、Intel SATAコントローラーがIDEモードに設定されている場合は強制的にRAIDモードになります。Intel B75チップセットマザーボードでは、Intel SATAコントローラーがIDEモードに設定されている場合は強制的にAHCIモードになります。

4-7-3 EZ Smart Connectのインストール

A. システム要件

1. BIOS設定におけるIntel Smart Connect Technologyの有効化
2. Windows 7 SP1
3. 通常のネットワーク接続
4. ホワイトリストに追加されたプログラムは有効である必要があります。

B. インストール

ステップ1:

EZ Smart Connectを選択し、**Setup**をクリックします。その後、システムを再起動します。システムは再起動し、BIOSセットアップで自動的にIntel Smart Connect Technologyを有効にします。(図1)

ステップ2:

EZ Setupを再度起動します。**EZ Smart Connect**を選択し、**Setup**をクリックします。画面上の指示に従って、Intel Smart Connect Technologyドライバをインストールします(図2)。ドライバのインストール後、システムを再起動します。



図1

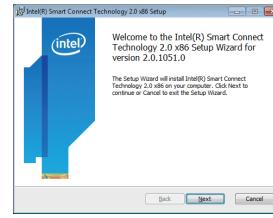


図2

C. EZ Smart Connectの構成

Config(図3)を選択してから、ホワイトプログラムリストに新しいプログラムを追加します(注)(図4)。OKをクリックしてシステムを再起動します。



図3

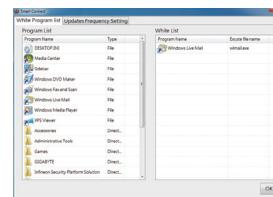


図4

D. EZ Smart Connectの無効化



EZ Smart Connectを無効にするには、**Disable EZ Smart Connect**を選択してから**Setup**をクリックします。

(注) この機能は、Microsoft Outlook®、Microsoft Windows Live™ Mail、およびSeesmic®などのデータを取得するため自動的にインターネットと協働するよう設計されたプログラムに最適です。

第5章 付録

5-1 SATA ハードドライブの設定

RAIDレベル

| | RAID 0 | RAID 1 | RAID 5 | RAID 10 |
|-------------|------------------------|------------|-----------------------------|----------------------------|
| ハードドライブの最小数 | ≥ 2 | 2 | ≥ 3 | ≥ 4 |
| アレイ容量 | ハードドライブの数 * 最小ドライブのサイズ | 最小ドライブのサイズ | (ハードドライブの数 -1) * 最小ドライブのサイズ | (ハードドライブの数/2) * 最小ドライブのサイズ |
| 耐故障性 | いいえ | はい | はい | はい |

SATA ハードドライブを設定するには、以下のステップに従ってください：

- コンピュータに SATA ハードドライブを取り付ける。
- BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定します。
- RAID BIOS で RAID アレイを設定します。^(注1)
- SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールします。^(注2)

始める前に

以下を準備してください：

- 少なくとも 2 台の SATA ハードドライブ(最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを 2 台使用することをお勧めします)。RAID を作成したくない場合、準備するハードドライブは 1 台のみで結構です。
- Windows 7/XP セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB フロッピーディスクドライブ(Windows XP のインストールの間必要)
- 空のフォーマット済みフロッピーディスク(Windows XP のインストールの間必要)

5-1-1 SATA コントローラを構成する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方の端を SATA ハードドライブの背面に接続し、他の端をマザーボードの空いている SATA ポート^(注3)に接続します。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクターを接続します。

(注1) SATA コントローラで RAID を作成しない場合、このステップをスキップしてください。

(注2) SATA コントローラが AHCI または RAID モードに設定されているときに要求されます。

(注3) SATA 6Gb/s と SATA 3Gb/s のチャンネルを共存して RAID が構築されている場合、RAID 構成のパフォーマンスは接続されているデバイスによって異なります。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

SATA コントローラコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ1:

コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。RAIDを作成するには、**SATA Mode Selection** メニューの下で **Peripherals** を RAID 設定します (図1)。RAIDを作成しない場合、この項目を **IDE** または **AHCI** に設定します。



図 1

ステップ2:

変更を保存し BIOS セットアップを終了します。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードの正確な設定によって異なることがあります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C. RAID BIOS で RAID アレイを設定する

RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。非 RAID 構成の場合、このステップをスキップし、Windows オペレーティングシステムのインストールに進んでください。

ステップ 1:

POST メモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」(図 2)。**<Ctrl> + <I>**を押して ICH10R RAID 設定ユーティリティに入ります。

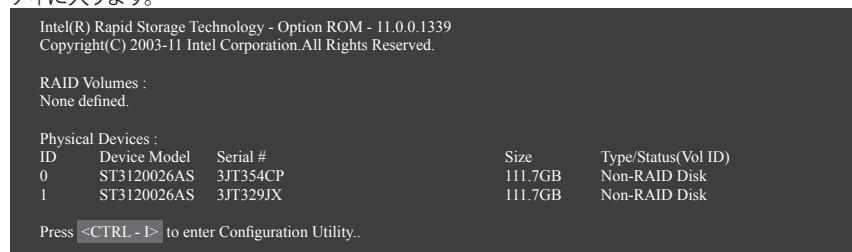


図 2

ステップ 2:

<Ctrl> + <I>を押すと、**MAIN MENU** スクリーンが表示されます(図 3)。

RAIDボリュームを作成する

RAID アレイを作成する場合、**MAIN MENU** で **Create RAID Volume** を選択し **<Enter>** を押します。

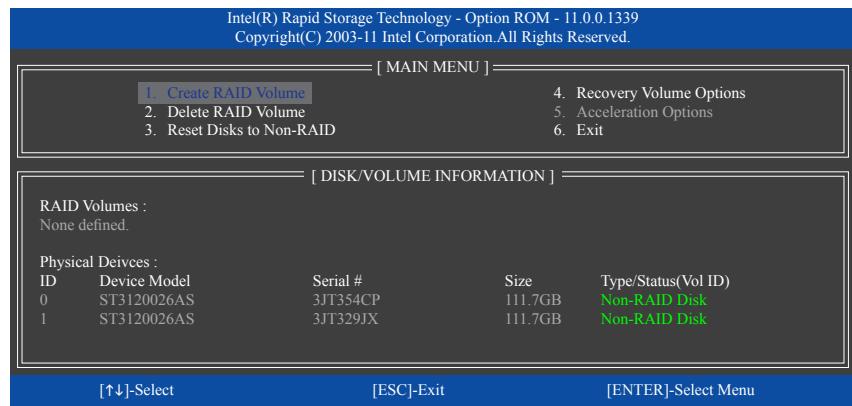


図 3

ステップ 3:

CREATE VOLUME MENU スクリーンに入った後、**Name** アイテムの下で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 4)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter> を押して続行します。

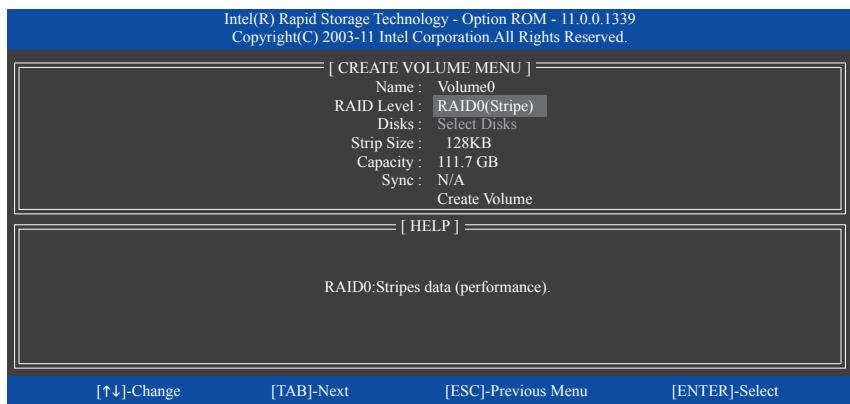


図 4

ステップ 4:

Disks アイテムの下で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。取り付けたドライブが 2 しかない場合、ドライブはアレイに自動的に割り当てられます。必要に応じて、ストライプブロックサイズ (図 5) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択してから、<Enter> を押します。

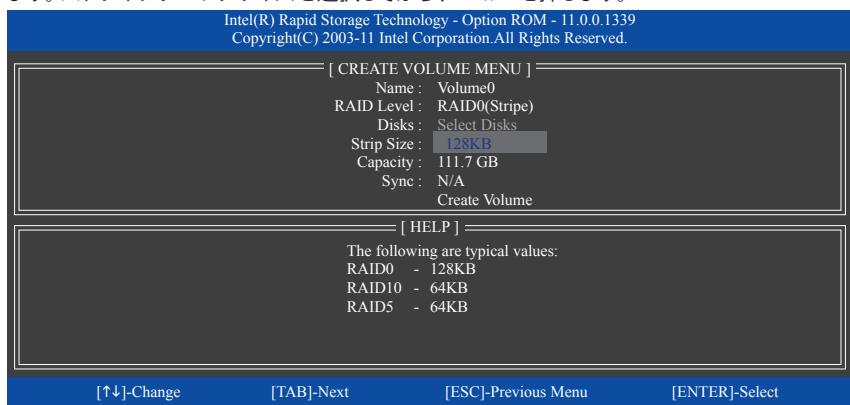


図 5

ステップ 5：

アレイの容量を入力し、<Enter> を押します。最後に、**Create Volume** で <Enter> を押し、RAID アレイの作成を開始します。ボリュームを作成するかどうかの確認を求められたら、<Y> を押して確認するか <N> を押してキャンセルします(図 6)。

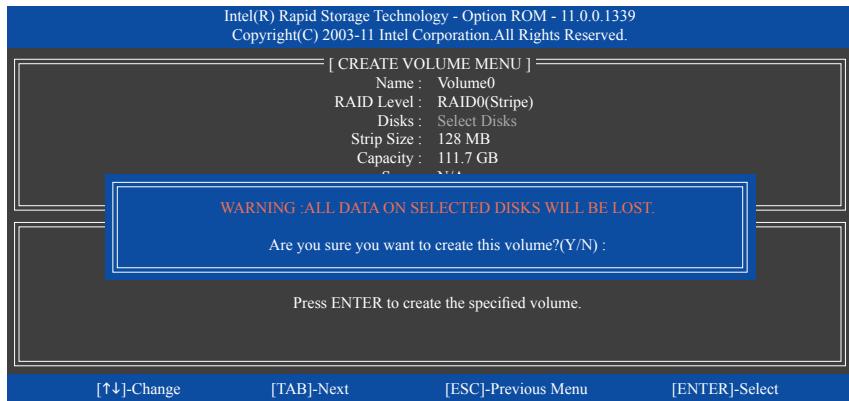


図 6

完了したら、**DISK/VOLUME INFORMATION** セクションに、RAID レベル、ストライプブロックサイズ、アレイ名、およびアレイ容量などを含め、RAID アレイに関する詳細な情報が表示されます(図 7)。

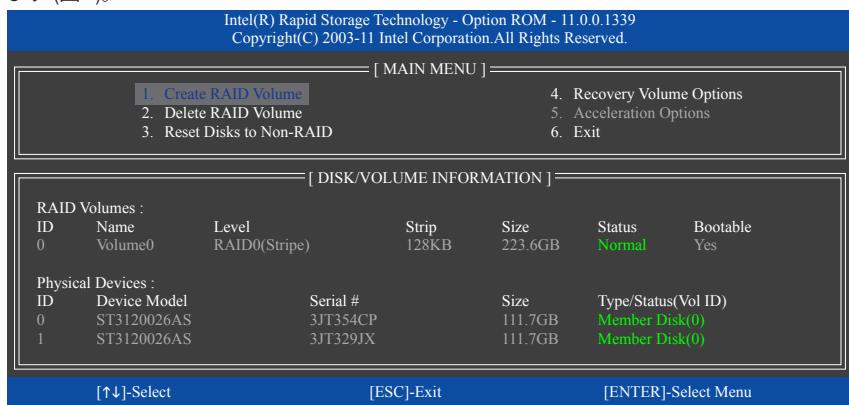


図 7

RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc> を押すか **MAIN MENU** で**4. Exit** を選択します。

これで、SATA RAID/AHCI ドライバディスクケットを作成し、SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールできるようになりました。

リカバリボリュームオプション

Intel Rapid Recover Technologyでは指定されたリカバリドライブを使用してデータとシステム操作を容易に復元できるようにすることで、データを保護しています。Rapid Recovery Technologyでは、RAID 1 機能を採用しているため、マスタードライブからリカバリドライブにデータをコピーすることができます。必要に応じて、リカバリドライブのデータをマスタードライブに復元することができます。

始める前に：

- ・リカバリドライブは、マスタードライブより大きな容量にする必要があります。
- ・リカバリボリュームは、2台のハードドライブがある場合のみ作成できます。リカバリボリュームと RAID アレイはシステムに同時に共存することはできません。つまり、リカバリボリュームがすでに作成されている場合、RAID アレイを作成できません。
- ・デフォルトで、オペレーティングシステムにはマスタードライブのみが表示されます。リカバリドライブは非表示にされています。

ステップ 1：

MAIN MENU で Create RAID Volume を選択し、<Enter>を押します（図 8）。

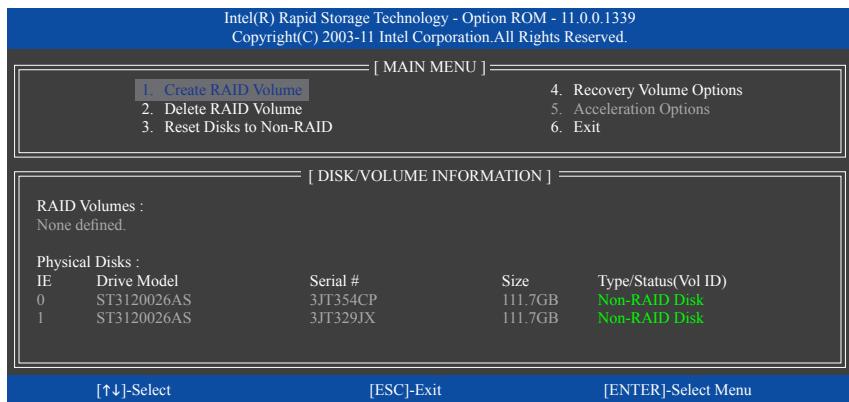


図 8

ステップ 2：

ボリューム名を入力した後、RAID Level アイテムの下で Recovery を選択し<Enter>を押します（図 9）。

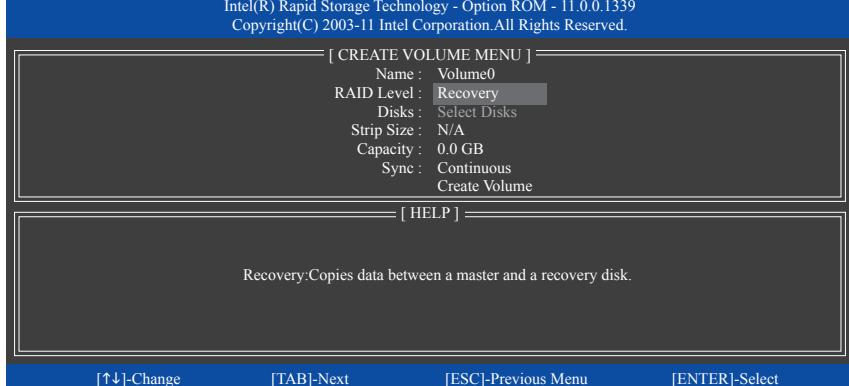


図 9

ステップ3:

Select Disks アイテムの下で、<Enter>を押します。SELECT DISKS ボックスで、マスタードライブに対して使用するハードドライブには<Tab>を押し、リカバリドライブに対して使用するハードドライブには<Space>を押します。(リカバリドライブの容量がマスタードライブの容量より大きいことを確認してください) <Enter>を押して確認します(図10)。

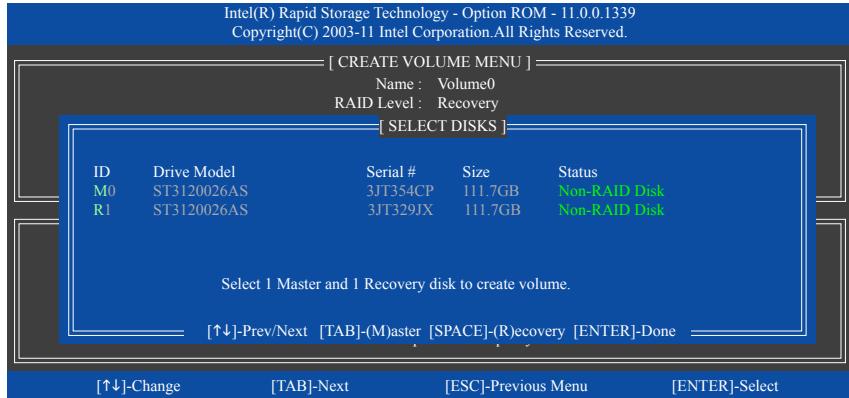


図10

ステップ4:

Sync の項目を、Continuous または On Request を選択します(図11)。Continuous に設定されているとき、両方のハードドライブがシステムの取り付けられていれば、マスタードライブのデータを変更するとその変更はリカバリドライブに自動的かつ連続してコピーされます。On Request では、オペレーティングシステムの Intel Rapid Storage Technology ユーティリティを使用してマスタードライブからリカバリドライブに手動でデータを更新できます。On Request では、マスタードライブを以前の状態に復元することもできます。

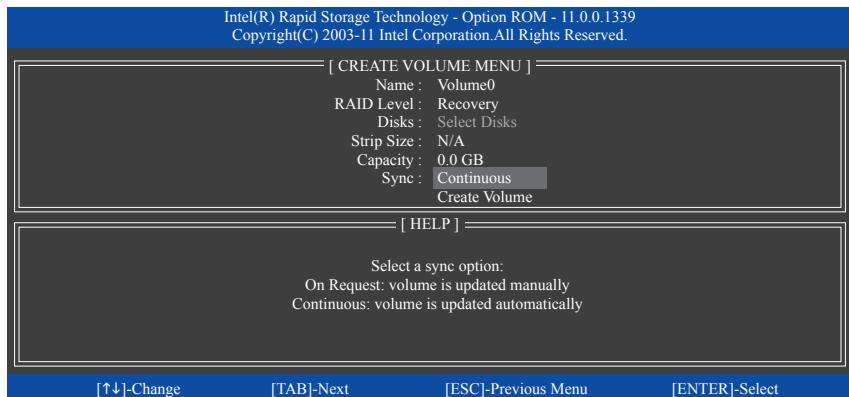


図11

ステップ5:

最後に、Create Volume の項目で<Enter>を押してリカバリボリュームの作成を開始し、オンスクリーンの指示に従って完了します。

RAIDボリュームを削除する

RAID アレイを削除するには、MAIN MENU で Delete RAID Volume を選択し、<Enter> を押します。DELETE VOLUME MENU セクションで、上または下矢印キーを使用して削除するアレイを選択し、<Delete> を押します。選択を確認するように求められたら(図 12)、<Y> を押して確認するか <N> を押して中断します。

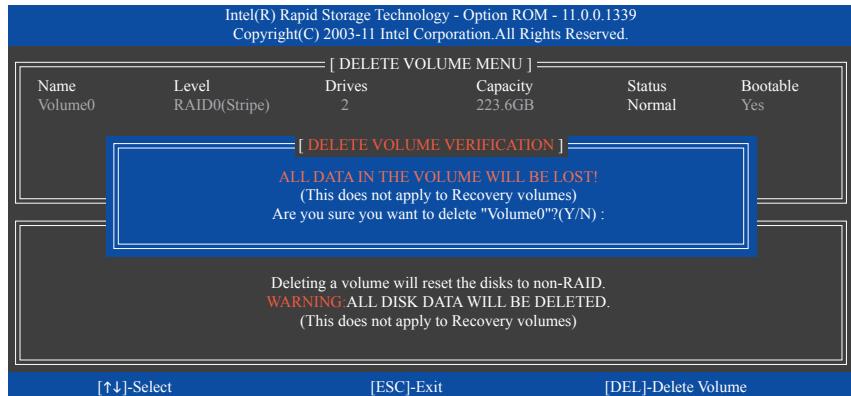


図 12

Acceleration Options

このオプションにより、インテルIRSTユーティリティを使用して作成された高速化ドライブ / ボリューム(図 13)の状態を表示できるようになります。アプリケーションエラーまたはオペレーティングシステムの問題によりインテルIRSTユーティリティを動作させることができなくなつた場合は、RAID ROMユーティリティにあるこのオプションを使用して、高速化をなくすかまたは手動で同期を有効にする必要があります(最大化モードのみ)。

ステップ：

Acceleration Options で MAIN MENU を選択し、<Enter>を押します。

高速化をなくすために、高速化するドライブ/ボリュームを選択してから <R> を押し、<Y> で確定します。

キャッシュデバイスと高速化ドライブ/ボリュームのデータを同期するには、<S> を押してから <Y> を押して確定します。

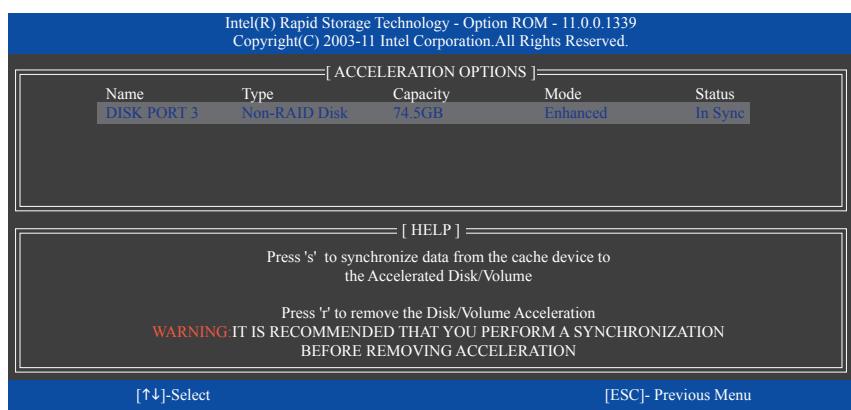


図 13

5-1-2 SATA RAID/AHCI ライバとオペレーティングシステムのインストール

BIOS 設定が正しく行われていれば、Windows 7/XP をいつでもインストールできます。

A. Windows 7のインストール

Windows 7 にはすでに Intel SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセスの間、RAID/AHCI を個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。

B. Windows XPのインストール

OS インストールの間、ドライバを含むフロッピーディスクから SATA RAID/AHCI ドライバをインストールする必要があるため、Windows XP をインストールする前に、まず USB フロッピーディスクドライブをコンピュータに接続してください。ドライバがない場合、ハードドライブは Windows セットアッププロセスの間認識されません。まず、マザーボードドライバディスクからフロッピーディスクにドライバをコピーします。以下の方法を参照してください。

方法 A:

Intel Z77 の場合、\BootDrv\iRST\32Bit フォルダのすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。Windows 64-Bit をインストールするには、64Bit フォルダにファイルをコピーします。

方法 B:

ステップ:

- 1: 代替システムを使い、マザーボードドライバディスクを挿入します。
- 2: 光学ドライブフォルダから、BootDrv フォルダの **Menu.exe** ファイルをダブルクリックします。
図 1 のようなコマンドプロンプトウィンドウが開きます。
- 3: 空のフォーマット済みディスクを挿入します (USB フロッピーディスクドライブを使用している場合、ドライブ A として指定されていることを確認してください)。メニューから対応する文字を押すことでコントローラドライバを選択し、<Enter>を押します。例えば、図 1 のようなコマンドプロンプトウィンドウが開きます。
 - Intel Z77 の場合、Windows 32-Bit オペレーティングシステムで **8) Intel Rapid Storage driver for 32bit system** を選択します。

ドライバファイルがフロッピーディスクに自動的にコピーされます。完了したら、どれかのキーを押して終了します。

```
1>Intel Matrix Storage driver for 32bit system
2>Intel Matrix Storage driver for 64bit system
3>GIGABYTE GSATA driver for 32bit system
4>GIGABYTE GSATA driver for 64bit system
5>Marvell AHCI driver for 32bit system
6>Marvell AHCI driver for 64bit system
7>Marvell RAID driver
8>Intel Rapid Storage driver for 32bit system
9>Intel Rapid Storage driver for 64bit system
0>exit
-
```

図 1

ドライバのインストール方法については下記を参照してください。

ステップ1:

システムを再起動してWindows XPセットアップディスクから起動し、「サードパーティ製SCSIまたはRAIDドライバをインストールする必要がある場合F6を押してください」というメッセージが表示されたら直ちに<F6>を押します。追加SCSIアダプタを指定するように求めるスクリーンが表示されます。<S>を押します。

ステップ2:

SATA RAID/AHCIドライバを含むフロッピーディスクを挿入し、<Enter>を押します。次に、以下の図2のようなコントローラメニューが表示されます。Intel(R) Desktop/Workstation/Server Express Chipset SATA RAID Controllerを選択し、<Enter>を押します。AHCIモードの場合、キーボードの矢印キーを使用して Intel(R) 7 Series/ C216 Chipset Family SATA AHCI Controller アイテムにスクロールし <Enter> を押します(図3)。

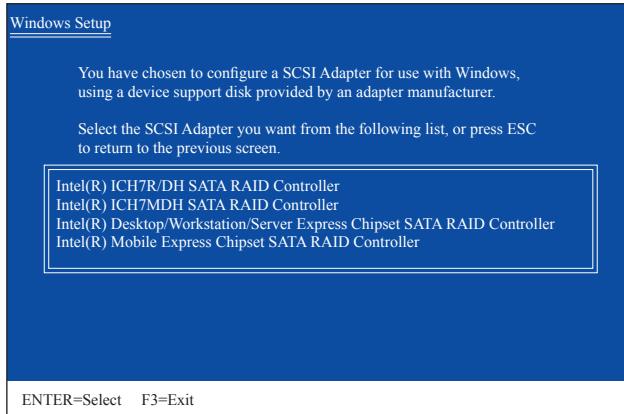


図2

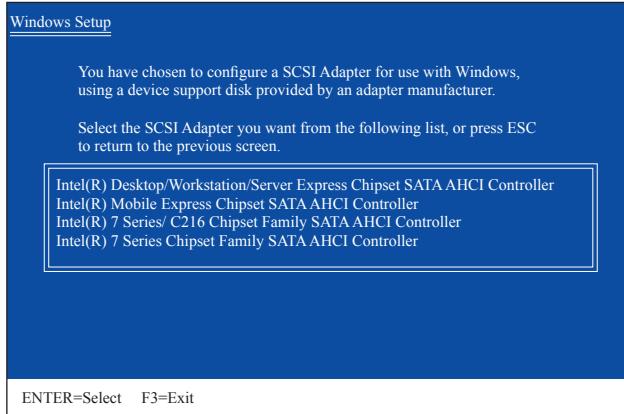


図3

ステップ3:

次のスクリーンで、<Enter>を押してドライバのインストールを続行します。ドライバのインストール後、Windows XPインストールに進むことができます。

C. アレイを再構築する

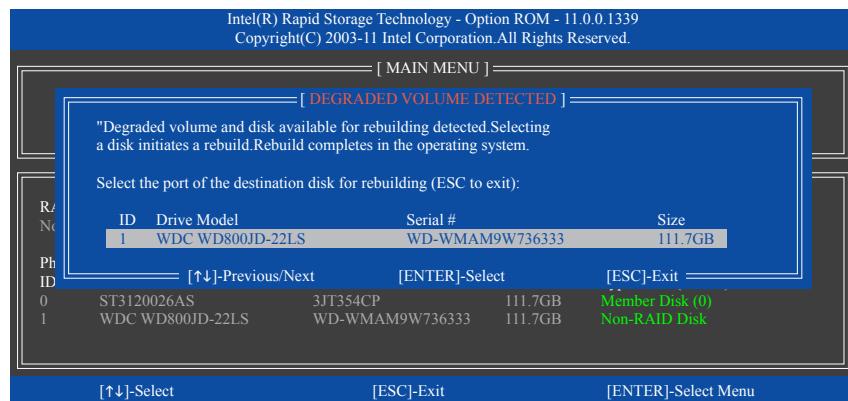
再構築は、アレイの他のドライブからハードドライブにデータを復元するプロセスです。再構築は、RAID 1、RAID 5、RAID 10 アレイに対してのみ適用されます。以下の手順では、新しいドライブを追加して故障したドライブを交換し RAID 1 アレイに再構築するものとします。(注：新しいドライブは古いドライブより大きな容量にする必要があります。)

コンピュータの電源をオフにし、故障したハードドライブを新しいものと交換します。コンピュータを再起動します。

・ 自動再構築を有効にする

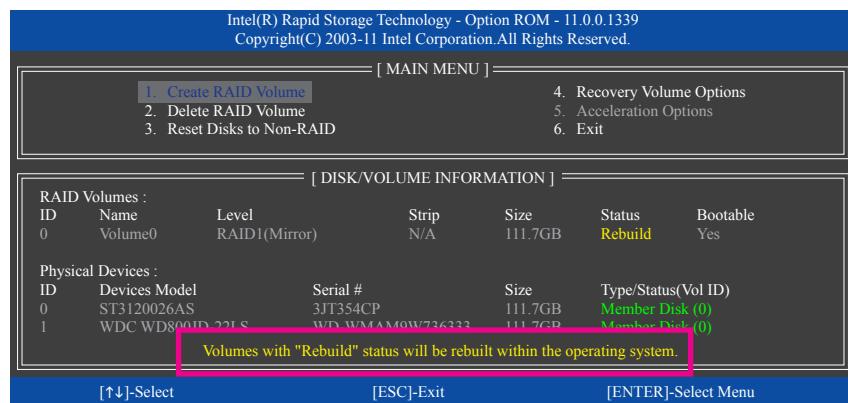
ステップ 1：

「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」というメッセージが表示されたら、<Ctrl> + <I> を押して RAID 構成ユーティリティに入ります。RAID 構成ユーティリティに入ると、次の画面が表示されます。



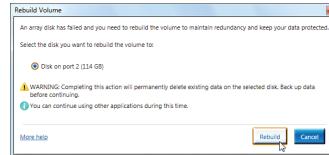
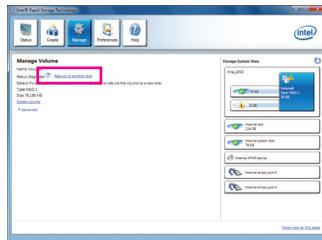
ステップ 2：

新しいハードドライブを選択して再構築するアレイに追加し、<Enter> を押します。次の画面が表示され、オペレーティングシステムに入った後で自動再構築が自動的に実行されます (RAID ボリュームが再構築されることを示す通知領域で **Intel Rapid Storage Technology** アイコン を確認します)。この段階で自動再構築を有効にしないと、オペレーティングシステムでアレイを手動で再構築する必要があります (詳細については、次のページを参照してください)。



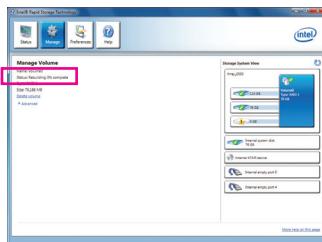
・ オペレーティングシステムで再構築を実行する

オペレーティングシステムに入っている間に、チップセットドライバがマザーボードドライバパーティスクからインストールされていることを確認します。StartメニューでAll ProgramsからIntel Rapid Storage Technologyユーティリティを起動します。

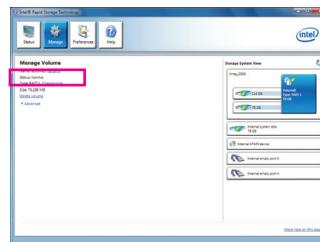


ステップ1:

Manageメニューに移動し、Rebuild to another disk in Manage Volume をクリックします。



画面左のStatus項目にリビルド進捗状況が表示されます。



ステップ2:

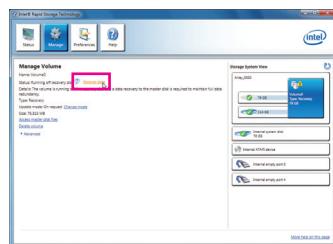
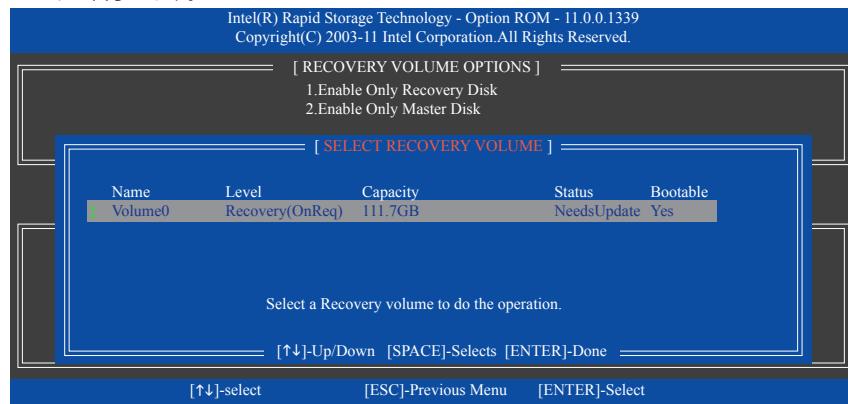
RAID 1ボリュームを再構築した後、StatusにNormalとして表示されます。

- マスタードライブを以前の状態に復元する(リカバリボリュームの場合のみ)

要件に応じて更新するモードで2台のハードドライブをリカバリボリュームに設定すると、必要に応じてマスタードライブのデータを最後のバックアップ状態に復元できます。たとえば、マスタードライブがウイルスを検出すると、リカバリドライブのデータをマスタードライブに復元することができます。

ステップ1:

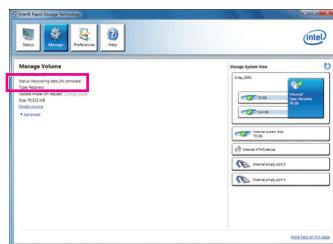
RAID構成ユーティリティのMAIN MENUで4. Recovery Volume Optionを選択します。RECOVERY VOLUMES OPTIONSメニューで、Enable Only Recovery Diskを選択してオペレーティングシステムのリカバリドライブを表示します。オンスクリーンの指示に従って完了し、RAID構成ユーティリティを終了します。



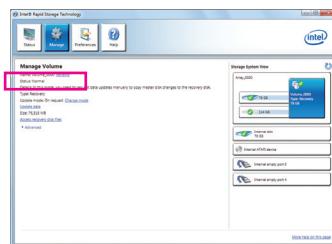
ステップ3:
Yes をクリックして、データの復元を開始します。

ステップ2:

Intel Rapid Storage TechnologyユーティリティのManageメニューに移動し、Manage VolumeでRecover dataをクリックします。



画面左のStatus項目にリビルド進捗状況が表示されます。



ステップ4:
リカバリボリュームが完了した後、StatusにNormalとして表示されます。

5-2 オーディオ入力および出力を設定

5-2-1 2/4/5.1/7.1 チャネルオーディオを設定する

マザーボードでは、背面パネルに 2/4/5.1/7.1 チャンネル^(注)オーディオをサポートするオーディオジャックが 5つ装備されています。右の図は、デフォルトのオーディオジャック割り当てを示しています。



統合された HD (ハイディフィニション) オーディオにジャック再タスキング機能が搭載されているため、ユーザーはオーディオドライバを通して各ジャックの機能を変更することができます。

例えば、4チャンネルオーディオ構成で、リアスピーカーをデフォルトのセンター/サブウーファースピーカーアウトジャックに差し込む場合、センター/サブウーファースピーカーアウトジャックをリアスピーカーアウトに再び設定することができます。

- マイクを取り付けるには、マイクをマイクインまたはラインインジャックに接続し、マイクのジャック機能を手動で設定します。
- 7.1チャネルオーディオを構成するには、Line Inジャックにサイドスピーカーを接続する必要があります。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。バックパネルのオーディオを消音にする場合 (HDフロントパネルのオーディオモジュールを使用しているときのみサポートされます)、次ページの指示を参照してください。

ハイディフィニションオーディオ (HD Audio)

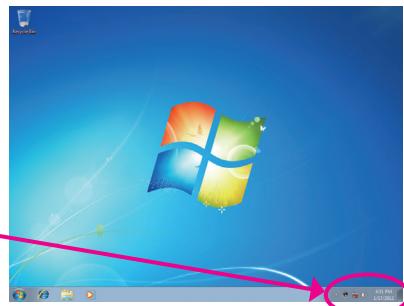
HD Audioには、複数の高品質デジタル - アナログコンバーター (DAC) があり、複数のオーディオストリーム (インおよびアウト) を同時に処理できるマルチストリーミング機能を特長としています。たとえば、MP3 ミュージックを聴いたり、インターネットチャットを行ったり、インターネットで通話を行ったりといった操作を同時に実行できます。

A. スピーカーを設定する

(以下の指示は、サンプルとして Windows 7 オペレーティングシステムを使用します。)

ステップ 1:

オーディオドライバをインストールした後、VIA HD Audio Deck アイコン  が通知領域に表示されます。アイコンをクリックして、VIA HD Audio Deck にアクセスします。



(注) 2/4/5.1/7.1チャネルオーディオ設定:

マルチチャンネルスピーカー設定については、次を参照してください。

- 2 チャンネルオーディオ: ヘッドフォンまたはラインアウト。
- 4 チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウトとリアスピーカーアウト。
- 5.1 チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウト、リアスピーカーアウトとセンター/サブウーファースピーカーアウト。
- 7.1 チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウト、リアスピーカーアウト、センター/サブウーファースピーカーアウトとサイドスピーカーアウト。

ステップ2:
オーディオデバイスをオーディオジャックに接続します。Please select a function ダイアログボックスが表示されます。接続するタイプに従って、デバイスを選択します。OK をクリックします。



ステップ3:
Speaker スクリーンで Speaker Configuration タブをクリックします。Speaker Setting and Test タブで、セットアップするスピーカー構成のタイプによって 2、4、6、または8チャネルスピーカーを選択します。スピーカーセットアップが完了しました。

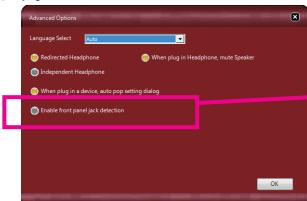


B. サウンド効果を設定する

Environmental Modeling タブでオーディオ環境を構成することができます。

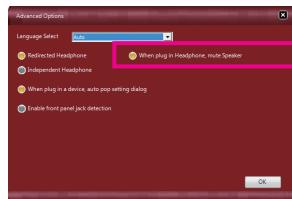
C. AC'97正面パネルオーディオモジュールを有効にする

シャーシにAC'97フロントパネルオーディオモジュールが付いている場合、AC'97機能をアクティブにするには、右下隅にある Advanced Options アイコンをクリックして Advanced Options ダイアログボックスを開きます。Enable front panel jack detection チェックボックスは選択しないでください。OK をクリックして完了します。



D. 後方パネルオーディオを消音する (HDオーディオのみ)

右下隅にある Advanced Options アイコンをクリックして Advanced Options ダイアログボックスを開きます。When plug in Headphone, mute Speaker チェックボックスを選択します。OK をクリックして完了します。



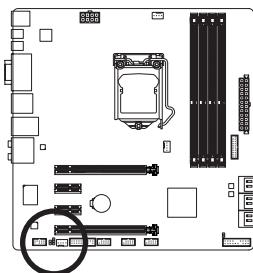
5-2-2 S/PDIF イン/アウトを構成する

A. S/PDIF In

S/PDIF インケーブル(オプション)では、デジタルオーディオ信号をコンピュータに入力してオーディオ処理を実行します。

1.S/PDIF インケーブルを接続する:

下記のように、マザーボード上にあるS/PDIF_INヘッダにS/PDIFケーブルを接続します。



2.S/PDIF インを構成する:

Digital In スクリーンで、Default Format タブをクリックし、サンプルレートとビット深度を選択します。OK をクリックして完了します。

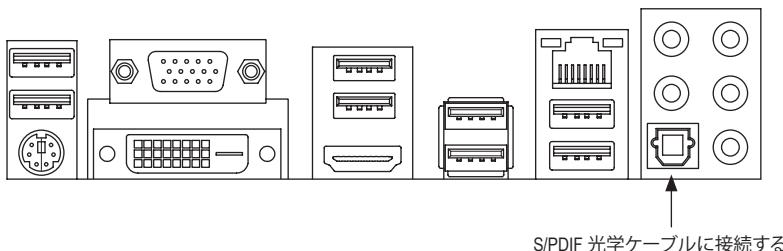


B. S/PDIF Out

S/PDIF アウト ジャックはデコード用にオーディオ信号を外部デコーダに転送し、最高の音質を得ることができます。

1.S/PDIF アウトケーブルを接続する：

S/PDIF 同軸ケーブルまたはS/PDIF光学ケーブルを以下に示すように対応するS/PDIFアウトコネクターと外部デコーダに接続し、S/PDIFデジタルオーディオ信号を転送します。



2.S/PDIF アウトを構成する：

SPDIF Out でスクリーンで^(注)、Default Format タブをクリックし、サンプルレートとビット深度を選択します。OK をクリックして完了します。



(注) デジタルオーディオ出力で背面パネルにS/PDIFアウトコネクターを使用している場合、詳細な設定を行うにはSPDIF Out画面を入力します、またはデジタルオーディオ SPDIF HDMIで内部S/PDIFアウトコネクター(SPDIF_0)を使用している場合、デジタル出力画面を入力します。

5-2-3 マイク録音を構成する

ステップ1:

オーディオドライバをインストールした後、VIA HD Audio Deck アイコン  が通知領域に表示されます。アイコンをクリックして、VIA HD Audio Deck にアクセスします。



ステップ2:

マイクをバックパネルの Mic in ジャック (ピンク) 、またはフロントパネルの Mic in ジャック (ピンク) に接続します。マイク機能用にジャックを構成します。

注: フロントパネルとバックパネルのマイク機能は、同時に使用できません。



ステップ3:

Microphone 画面に移動します。録音ボリューム (REC Vol) を、消音にしないでください。サウンドの録音ができなくなります。録音処理中に録音されているサウンドを聞く場合は、マイクボリューム (Microphone) を消音にしないでください。中間レベルの音量に設定することをお勧めします。



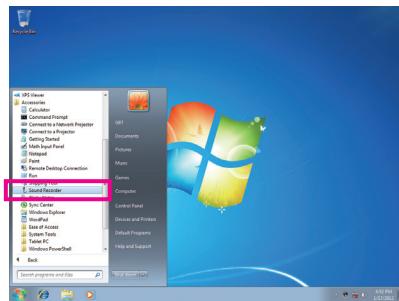
ステップ4:

マイク用の録音と再生ボリュームを上げるには、右側のスライダーを使用してマイクのブーストレベルを設定します。



ステップ 5:

上の設定を完了したら、**Start** をクリックし、**All Programs** をポイントし、**Accessories** をポイントし、**Sound Recorder** をクリックしてサウンド録音を開始します。

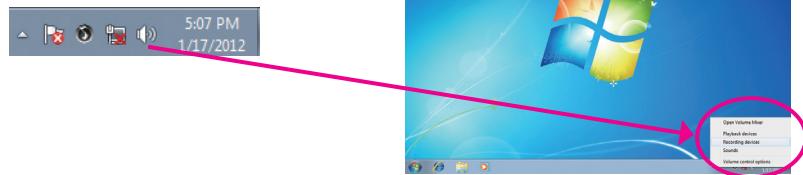


* Stereo Mix (ステレオミックス)を有効にする

VIA HD Audio Deckで使用する録音デバイスが表示されない場合、以下のステップを参照してください。次のステップではStereo Mix (ステレオミックス)を有効にする方法を説明しています（コンピュータからサウンドを録音するときに必要となります）。

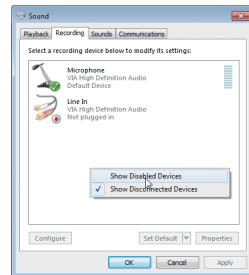
ステップ 1:

通知領域でアイコン  を確認し、このアイコンを右クリックします。**Recording Devices** を選択します。



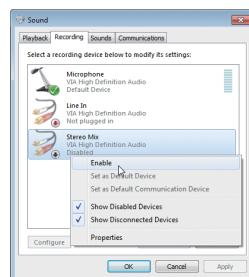
ステップ 2:

Recording タブで、空の領域を右クリックし、**Show Disabled Devices** を選択します。



ステップ 3:

Stereo Mix が表示されたら、項目を右クリックし **Enable** を選択します。デフォルトのデバイスとしてこれを設定します。



ステップ4:

VIA HD Audio Deck にアクセスして **Stereo Mix** を構成し、**Sound Recorder** を使用してサウンドを録音することができます。



5-2-4 Sound Recorder を使用する



A. サウンドを録音する

1. コンピュータにサウンド入力デバイス（マイク、など）を接続していることを確認します。
2. オーディオを録音するには、**Start Recording** ボタン をクリックします。
3. オーディオ録音を停止するには、**Stop Recording** ボタン をクリックします。

完了したら、録音したオーディオファイルを必ず保存してください。

B. 録音したサウンドを再生する

オーディオファイル形式をサポートするデジタルメディアプレーヤープログラムで録音を再生することができます。

5-3 ブラウザのトラブルシューティング

5-3-1 良くある質問

マザーボードに関する FAQ の詳細をお読みになるには、GIGABYTE の Web サイトの [Support & Downloads](#) | [FAQ](#) ページにアクセスしてください。

Q: なぜコンピュータのパワーを切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか？
A: いくつかのマザーボードでは、コンピュータのパワーを切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

Q: CMOS 値をクリアするには？

A: クリア CMOS ボタンの付いたマザーボードの場合、このボタンを押して CMOS 値をクリアします（これを実行する前に、コンピュータの電源をオフにして電源コードを抜いてください）。クリア CMOS ジャンパの付いたマザーボードの場合、第 1 章の CLR_CMOS ジャンパの指示を参照し、CMOS 値をクリアします。ボードにこのジャンパが付いてない場合、第 1 章のマザーボードバッテリーに関する説明を参照してください。バッテリーホルダからバッテリーを一時的に取り外して CMOS への電力供給を止めると、約 1 分後に CMOS 値がクリアされます。

Q: なぜスピーカーの音量を最大にしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか？

A: スピーカーにアンプが内蔵されていることを確認してください。内蔵されていない場合、電源 / アンプでスピーカーを試してください。

Q: オンボード HD オーディオドライバを正常にインストールできないのは、どうしてですか？(Windows XP のみ)

A: ステップ 1: まず、Service Pack 1 または Service Pack 2 がインストールされていることを確認します（マイコンピュータ > プロパティ > 全般 > システムでチェック）。インストールされていない場合、Microsoft の Web サイトから更新してください。それから、Microsoft UAA Bus Driver for High Definition Audio（ハイディフィニションオーディオ用 Microsoft UAA バスドライバ）が正常にインストールされていることを確認します（マイコンピュータ > プロパティ > ハードウェア > デバイスマネージャ > システムデバイスでチェック）。

ステップ 2: [Audio Device on High Definition Audio Bus](#) または [Unknown device](#) が [Device Manager](#) または [Sound, video, and game controllers](#) に存在するかどうかをチェックします。存在する場合、このデバイスを無効にしてください。（存在しない場合、このステップをスキップします。）

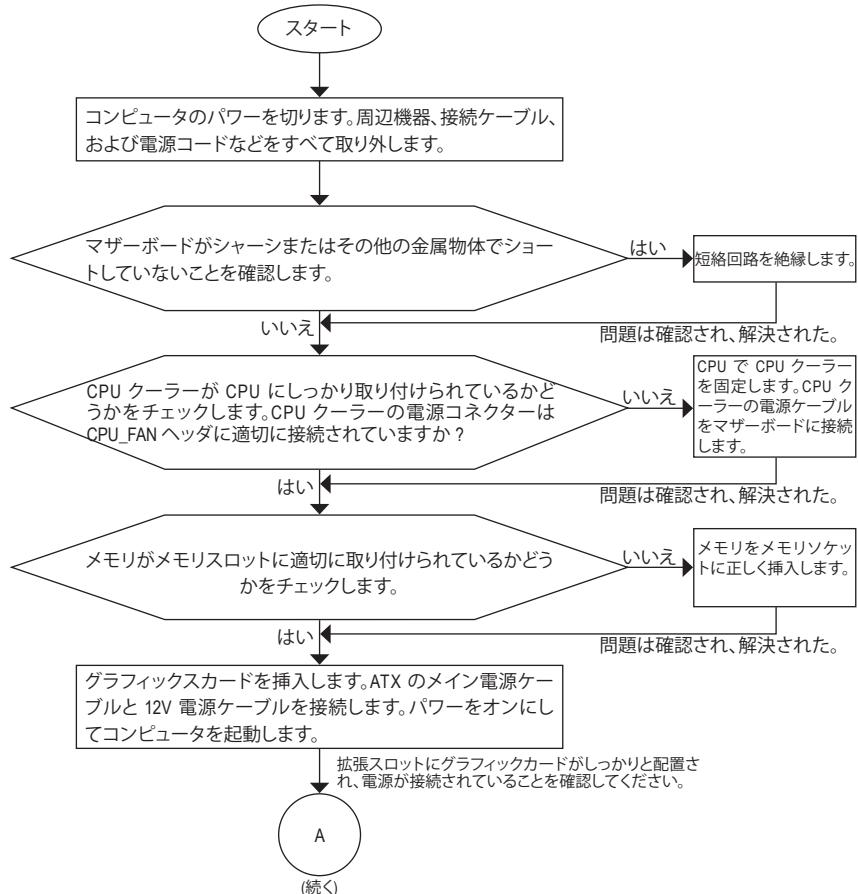
ステップ 3: 次に、マイコンピュータ > プロパティ > ハードウェア > デバイスマネージャ > システムデバイスに戻り、[Microsoft UAA Bus Driver for High Definition Audio](#) を右クリックして [Disable](#) と [Uninstall](#) を選択します。

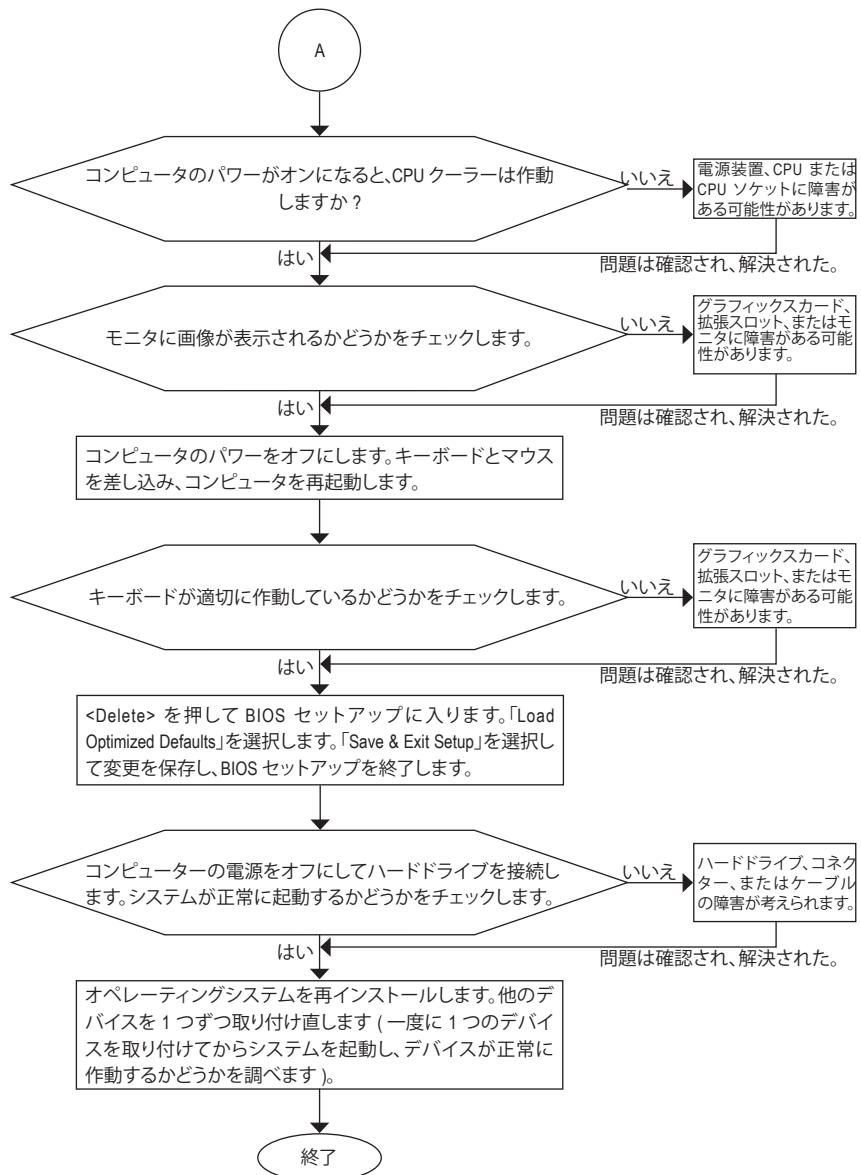
ステップ 4: [Device Manager](#) で、コンピュータ名を右クリックし、[Scan for hardware changes](#) を選択します。[Add New Hardware Wizard](#) が表示されたら、[Cancel](#) をクリックします。マザーボードドライバディスクからオンボード HD オーディオドライバをインストールするか、GIGABYTE の Web サイトからオーディオドライバをダウンロードしてインストールします。

詳細については、当社 Web サイトの [Support & Downloads](#) | [FAQ](#) ページに移動し、「オンボード HD オーディオドライバ」を検索します。

5-3-2 トラブルシューティング手順

システム起動時に問題が発生した場合、以下のトラブルシューティング手順に従って問題を解決してください。





上の手順でも問題が解決しない場合、ご購入店または販売店に相談してください。または、Support & Downloads\Technical Support ページに移動し、質問を送信してください。当社の顧客サービス担当者が、できるだけ速やかにご返答いたします。

5-3-3 規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとします。しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに対する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的な安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図ではなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にある場合は梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。



連絡先

• GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス :No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist.,
New Taipei City 231, Taiwan
TEL:+886-2-8912-4000
FAX:+886-2-8912-4003
技術および非技術。サポート(販売 / マーケティング):

<http://ggts.gigabyte.com.tw>
WEB アドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>
WEB アドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

• G.B.T.INC.- U.S.A.

TEL:+1-626-854-9338
FAX:+1-626-854-9326
技術サポート: <http://ggts.gigabyte.com.tw>
保証情報: <http://rma.gigabyte.us>
Web アドレス: <http://www.gigabyte.us>

• G.B.T.G.B.T. INC (USA) - メキシコ

Tel:+1-626-854-9338 x 215 (Soporte de habla hispano)
TEL:+1-626-854-9326
Correo: soporte@gigabyte-usa.com
技術サポート: <http://rma.gigabyte.us>
Web アドレス: <http://latam.giga-byte.com>

• Giga-Byte SINGAPORE PTE.LTD.- シンガポール

WEB アドレス: <http://www.gigabyte.sg>

• タイ

WEB アドレス: <http://th.giga-byte.com>

• ベトナム

WEB アドレス: <http://www.gigabyte.vn>

• NINGBO G.B.T.TECH.TRADING CO., LTD.- 中国

WEB アドレス: <http://www.gigabyte.cn>

上海

TEL:+86-21-63410999
FAX:+86-21-63410100

北京

TEL:+86-10-62102838
FAX:+86-10-62102848

武漢

TEL:+86-27-87851061
FAX:+86-27-87851330

広州

TEL:+86-20-87540700
FAX:+86-20-87544306

成都

TEL:+86-28-85236930
FAX:+86-28-85256822

西安

TEL:+86-29-85531943
FAX:+86-29-85510930

瀋陽

TEL:+86-24-83992901
FAX:+86-24-83992909

• GIGABYTE TECHNOLOGY (INDIA) LIMITED - インド

WEB アドレス: <http://www.gigabyte.in>

• サウジアラビア

WEB アドレス: <http://www.gigabyte.com.sa>

• Gigabyte Technology Pty. Ltd. - オーストラリア

WEB アドレス: <http://www.gigabyte.com.au>

- **G.B.T.G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH - ドイツ**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.de>
- **G.B.T.TECH.CO., LTD. - U.K.**
WEB アドレス : <http://www.giga-byte.co.uk>
- **Giga-Byte Technology B.V. - オランダ**
WEB アドレス : <http://www.giga-byte.nl>
- **GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCE - フランス**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.fr>
- **スウェーデン**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.se>
- **イタリア**
WEB アドレス : <http://www.giga-byte.it>
- **スペイン**
WEB アドレス : <http://www.giga-byte.es>
- **ギリシャ**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.com.gr>
- **チェコ共和国**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.cz>

- **ハンガリー**
WEB アドレス : <http://www.giga-byte.hu>
- **トルコ**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.com.tr>
- **ロシア**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.ru>
- **ポーランド**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.pl>
- **ウクライナ**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.ua>
- **ルーマニア**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.com.ro>
- **セルビア**
WEB アドレス : <http://www.gigabyte.co.rs>
- **カザフスタン**
WEB アドレス : <http://www.giga-byte.kz>

GIGABYTE Web サイトにアクセスし、Web サイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

- **GIGABYTEグローバルサービスシステム**



技術的または技術的でない(販売/マーケティング)質問を送信するには:
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
にアクセスし、言語を選択してシステムに入つてください。